

TASCAM

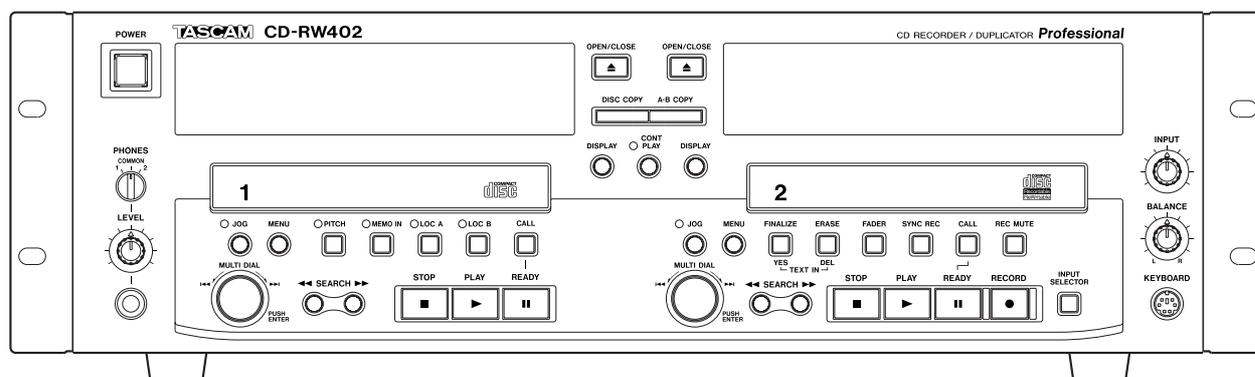
TEAC Professional Division

D00631500A

CD-RW402

CD Recorder/Duplicator

取扱説明書



安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

 警告	
	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店または当社サービスセンターに修理をご依頼ください。
	万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
	電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

安全にお使いいただくために

⚠警告

	この機器を設置する場合は、壁から 20 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から 2 cm 以上、背面から 10 cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 <ul style="list-style-type: none">・ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所・ 湿気やほこりの多い場所・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM CD-RW402をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、十分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機について

CD-RW402はCDドライブを2基搭載したCDレコーダー／デュプリケーターです。本機を使ってCDやCD-ROMをCD-RやCD-RWへ簡単にコピーすることができます。

- わかりやすいメニューシステムを使ったフロントパネルからの操作と、ワイヤード・リモコンによる確実な操作により、使い勝手が抜群です。
- A/DおよびD/Aコンバーターは音質に優れた24ビットタイプを採用しています。
- サンプリング周波数コンバーターを内蔵していますので、44.1kHz以外のサンプリング周波数のデジタルソースを直接入力してCDにダビングすることができます。
- アナログ入出力は+4dBuのXLRバランスコネクタと-10dBVのRCAピンジャックを装備し、あらゆるアナログ機器に対応しています。
- デジタル入出力はコアキシャルとオプティカルの両方を装備しています。
- CD録音の際、入力レベルを検出してトラック番号を自動的にふることができるほか、手動による番号付けも可能です。
- 録音バッファを搭載しているため、信号検出による録音スタートを行なっても音の出だしが欠けることはありません。
- 仮想TOC編集機能を使って、コピー元CDとTOCの異なるCDの作成が可能です。
- その他の機能
 - ・ ジョグ機能による正確な頭出し
 - ・ キュー機能により、最後に再生を始めた位置へのロケートが可能
 - ・ ピッチコントロール
 - ・ インデックス記録機能
 - ・ フェードイン／アウト機能
 - ・ 使いやすいMULTI DIAL

ご注意

音楽、映像、コンピュータプログラム、データベース等の著作物は、著作権法その他の法規、または、お客様との間で締結される使用許諾契約に基づき、その複製や使用について制限されることがあります。複製等をされる前に、著作物毎の条件を充分ご確認の上、本装置を適正にご使用くださいますようお願いいたします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負いたしません。

目次

第1章 はじめに	4
本機について	4
目次	4
構成	6
取扱説明書の表記	6
設置上のご注意	6
結露について	6
ディスク使用上のご注意	6
CD-RとCD-RW	7
ラックマウントについて	7
アフターサービス	7
本取扱説明書の構成	8
第2章 メニューシステム	8
メニューグループとメニュー項目	9
第3章 各部の名称と働き	12
フロントパネル	13
リアパネル	14
RC-RW402 (リモコン)	16
第4章 再生	18
基本的な再生	18
サーチと頭出し	18
トラックスキップ	18
テンキーによるトラック指定	18
サーチ	19
ジョグ機能	19
3つの再生モード	19
シャッフル再生	20
プログラム再生	20
リピート機能	21
交互連続再生	21
CALL機能	22
メモリーポイント機能 (ドライブ1のみ)	22
ピッチコントロール (ドライブ1のみ)	22
表示モード	23
オートレディ機能	23
オートキュー機能	23
インクリメンタルプレイ	23
ISRCの表示 (ドライブ2のみ)	23
RIDの表示 (ドライブ2のみ)	24
EOMタリータイムの設定	24
TOC編集機能 (ドライブ1のみ)	24
トラックを分割する (DIVIDE)	24
トラックをつなげる (COMBINE)	24
トラックの先頭位置を設定する (START Pt SET)	25
トラックの終了位置を設定する (END Pt SET)	25
トラックを消去する (ERASE TRACK)	25
編集を全てキャンセルする (ALL CANCEL)	25

第5章 録音	26	CD TEXTデータの一時保存と呼び出し.....	37
録音の前に.....	26	CD TEXTデータの一時保存.....	37
入力信号の選択.....	26	CD TEXTデータの呼び出し.....	37
入力信号の調整.....	26	第7章 ディスクコピー機能	38
入力信号のモニター.....	27	コピーに関する注意事項.....	38
サンプリング周波数コンバーター.....	27	DISC コピー.....	38
基本的な録音.....	27	PGM コピー.....	39
ファイナライズ.....	28	DAO (Disk At Once) コピー.....	40
アンファイナライズ.....	28	A-B コピー.....	41
表示モード.....	29	A-B EXCL コピー.....	41
シンク録音.....	29	第8章 その他のシステム設定	42
サウンドレベルの設定.....	29	ディマー設定.....	42
シンク録音を行なう.....	29	メーターピークホールド設定.....	42
シンクエンドタイムの設定.....	30	タイマー再生.....	42
シンクトリムの設定.....	30	インデックス表示.....	42
オートトラック.....	31	第9章 外部コントロール	43
無音検出時間の設定.....	31	CONTROL I/O.....	43
オートトラックの設定.....	31	PC キーボード.....	43
マニュアルでトラック番号を付ける.....	31	キーボードタイプの設定.....	44
トラックインクリメントタイミングの調整.....	31	キーボードテンプレート.....	44
録音トラック数の指定.....	32	第10章 メッセージ、仕様	45
レックミュート.....	32	メッセージ一覧表.....	45
レックミュート時間の設定.....	32	動作時のメッセージ.....	45
フェードイン/アウト.....	32	エラーメッセージ.....	45
フェードタイムの設定.....	32	仕様.....	46
フェードインを行なう.....	32	ドライブ1性能仕様.....	46
フェードアウトを行なう.....	32	ドライブ2性能仕様.....	46
コピーIDの設定.....	33	デジタル入出力仕様.....	46
消去.....	33	アナログ入出力仕様.....	46
インデックス機能.....	33	ヘッドホン出力仕様.....	46
インデックスインクリメントモード.....	33	一般.....	46
インデックス00の長さ設定.....	34	寸法図.....	47
エクステンドチェック機能.....	34		
エクステンドチェックを行なう.....	34		
第6章 CD TEXT	35		
CD TEXT情報の入力手順.....	35		
本体からの文字入力方法.....	35		
文字の選択.....	35		
文字の種類.....	35		
入力できる文字.....	35		
カーソルの移動.....	36		
文字の挿入.....	36		
文字の削除.....	36		
CD TEXTのコピー&ペースト.....	36		
キーボードを使った文字入力方法.....	36		
カーソルの移動.....	36		
文字の挿入.....	36		
文字の削除.....	36		
その他の操作.....	36		

構成

本製品の構成は以下の通りです。

- RC-RW402 リモートコントロールユニット (× 1)
- ラックマウントビスケット (ビス4本、ワッシャー4本)
- 電源コード

取扱説明書の表記

この取扱説明書では以下のようなルールで表記します。

- XXX : 選択可能な値を表します。
例: A_TRACK > XXX (ON/OFF を選択可能)
- [] : ディスプレイのインジケータを表します。
例: [SHUFFLE]
- " " : ディスプレイに表示する文字を表します。
例: "OPEN"

設置上のご注意

- 本機の動作保証温度は5度～35度です。
- 本機は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、電源を入れたまま約1～2時間放置した後、一度電源を切り、再び電源を入れてお使いください。

ディスク使用上のご注意

- 以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。
CD-R



CD-RW



- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。
- 信号録音面(レーベルがない面)には触れないでください。指紋や脂などが付着していると、録音するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。
ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- レーベル面に印字するタイプのディスク(プリンタブル)は使用しないでください。表面が特殊加工されているため、本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RとCD-RW

CD-Rディスクには、一度だけしか録音できません。録音したトラック（曲）を消去することもできません。

ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。

CD-RWディスクは、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。

ただし消去できるのは、指定した曲から最後に録音した曲までです。途中の曲だけを消去することはできません。

CD-RWは、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

ファイナライズとは

音声データをCD-RやCD-RWディスクに録音しても、最終的なTOC*をディスクに記録しなければ、一般のCDプレーヤーで再生することはできません。

TOCを記録することをファイナライズといいます。

ファイナライズしたディスクには、録音することができません。

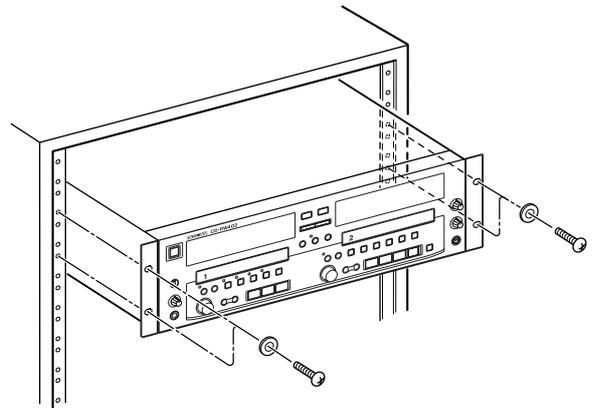
ただしCD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。（28ページ）

*TOC：Table of Contents＝録音したデータの情報

ラックマウントについて

- ラックにマウントする場合は、付属のラックマウント用ビスを使って下図のように、取り付けてください。

なお、本機の上に1U以上のスペースを、後ろに10cm以上のスペースを開けてください。



アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、記載内容をご確認の上、取扱説明書などと一緒大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は記載内容により当社サービス機関が修理いたします。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、ご購入の販売店または当社営業所などにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上ご連絡ください。
 - 型名、型番（TASCAM CD-RW402）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打ち切り後5年です。

第1章 はじめに

本取扱説明書の構成

第1章 はじめに

本機的主要な機能や一般的な重要事項が書かれています。必ずお読みください。

第2章 メニューシステム

本機のメニューシステムの使い方と各メニューの内容を説明します。

第3章 各部の名称と働き

本機およびリモコンの各キー、つまみ、端子などの働きを説明します。

第4章 再生

本機を通常のCDプレイヤーとして使用する場合の機能を説明します。

第5章 録音

本機の録音機能を説明します。録音後のファイナライズやCD-RWの場合の消去についても説明します。

第6章 CD TEXT

本機のCD TEXT データの入力／記録機能について説明します。

第7章 ディスクのコピー機能

本機のドライブ間でのディスクコピー機能について説明します。

第8章 その他のシステム設定

ディスプレイ表示に関してなど、本機のシステム全体に関する設定について説明します。

第9章 外部コントロール

外部のPS/2 コンピュータキーボード、あるいはCONTROL I/O端子に接続した機器から本機をコントロールする場合について説明します。

第10章 メッセージ、トラブルシューティング、仕様

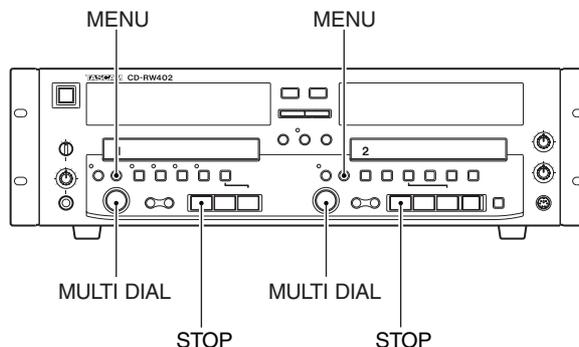
ディスプレイ表示されるメッセージの一覧表と本機の仕様を掲載します。

第2章 メニューシステム

本機は操作しやすくわかりやすいメニューシステムを採用しています。

メニュー操作では各ドライブごとに装備したMENUキーとMULTI DIALを使用します。ドライブ1は再生専用、ドライブ2は録音／再生が可能ですので、それぞれのドライブでメニュー内容が異なります。

以下にメニューの基本操作を説明します。



- 1 MENUキーを押します。
- 2 MULTI DIALを回して希望のメニューグループを選択します。
- 3 MULTI DIALを押します。
選択したメニューグループが表示されます。
- 4 MULTI DIALを回して希望のメニュー項目を選択します。
- 5 MULTI DIALを押します。
選択したメニュー項目が表示されます。
- 6 MULTI DIALを使ってパラメータを設定します。
7. MULTI DIALを押します。
通常の画面に戻ります。

操作をキャンセルしたい時はそれぞれのMENUキーを押します。

メモ

「はい」か「いいえ」の答を要求する画面が表示された場合、「はい」の時はMULTI DIAL、「いいえ」の時はSTOPキーを押します。

- 原則として本書の以降の各機能説明の中では、メニュー項目を呼び出したりパラメータを設定する上記のような手順を細かく記述しません。単に「メニューグループXXXXのメニュー項目XXXで、パラメータをXXに設定します。」のように記述します。
- メニュー項目を表示中、MENUキーを押すとメニューグループのタイトルが表示されます。ここでMULTI DIALを回すと別のメニューグループを選択することができます。
- パラメータを設定中、MENUキーを押すとメニュー項目が表示されます。ここでMULTI DIALを回すと別のメニュー項目を選択することができます。

メニューグループとメニュー項目

本機のメニュー内容をメニューグループ別にまとめておきます。
詳しい内容についてはそれぞれの説明箇所をご参照ください。

SYSTEM MENU (ドライブ1、2別々に設定)

メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
KEYBOARD (ドライブ2のみ)	タイトル入力用のキーボードのタイプを選択	US, JP	US	43
DIMMER	ディスプレイの明るさを設定	1～8	6	42
TIMER PLAY (ドライブ1のみ)	ONに設定すると、電源オン時にドライブ1を自動再生	OFF, ON	OFF	42
INDEX DSP (ドライブ1のみ)	ドライブ1の再生中にインデックスを表示するかどうかを設定	OFF, ON	OFF	42
ISRC COPY (ドライブ2のみ)	各コピー動作時、ISRCデータをコピーするかどうかを選択	OFF, ON	OFF	38
PEAK HOLD	本体のピークメーター表示のピークホールドタイムを設定	0.0s～2.5s (0.1sステップ) HOLD	1.2s	42

PLAY MENU (ドライブ1、2別々に設定)

メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
PLAY MODE	再生モードの設定	CONTINUE, SHUFFLE, PROGRAM	CONTINUE	19
REPEAT MODE	リピートモードの設定	OFF, ALL, 1	OFF	21
PITCH (ドライブ1のみ)	再生ピッチの設定	-9.9%～+9.9% (0.1%ステップ)	0.0%	22
AUTO CUE	オートキューのオン/オフ設定 およびオン時の検出レベル設定	OFF, -72dB, -66dB, -60dB, -54dB, -48dB, -42dB, -36dB, -30dB, -24dB	OFF	23
AUTO READY	オートレディ機能のオン/オフ設定	OFF, ON	OFF	23
INC PLAY	インクリメンタル機能のオン/オフ設定	OFF, ON	OFF	23
JOG LENGTH	ジョグ再生時の再生時間を設定	12f～99f (1fステップ)	16f	19
EOM TIME	再生トラックの終了を知らせる EOMタリーの出力タイミングを設定	0s～99s (1sステップ)	0s	24

第2章 メニューシステム

REC MENU 1 (ドライブ2のみ)

メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
DIG VOLUME	入力レベルの設定	-∞~+18dB	0dB	26
AUTO TRACK	オートトラック機能のオン/オフ設定	ON,OFF	ON	31
SOUND LEVEL(A)	シンク録音時の録音開始レベルや、オートトラックでのトラック分割レベルを設定(アナログ入力用)	-72dB, -66dB, -60dB, -54dB, -48dB, -42dB, -36dB, -30dB, -24dB	-54dB	31
SOUND LEVEL(D)	シンク録音時の録音開始レベルや、オートトラックでのトラック分割レベルを設定(デジタル入力用)	MIN_L, -72dB, -66dB, -60dB, -54dB, -48dB, -42dB, -36dB, -30dB, -24dB	-54dB	31
COPY ID	コピーIDの設定	PROH,1GEN,FREE	1GEN	33
FADE IN TIME	フェードインタイムの設定	1s~24s (1sステップ)	3s	32
FADE OUT TIME	フェードアウトタイムの設定	1s~24s (1sステップ)	3s	32

REC MENU 2 (ドライブ2のみ)

メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
REC MUTE TIME	レックミュートタイムの設定	1s~10s (1sステップ)	4s	32
INC WATCH TM	オートトラック機能で、トラックを更新するために必要な音の立ち上がりまでの無音の検出時間を設定	1s~6s (1sステップ)	3s	31
SYNC END TM	シンク録音中、音の立下りからシンク録音一時停止になるまでの無音検出時間を設定	5s~60s (1sステップ)	5s	30
SYNC TRIM	シンク録音開始ポイントからずらして録音を始める場合のトリム値を設定	-125f~+125f (1fステップ)	0f	30
INC TRIM	オートトラックインクリメント時のトリム値を設定	-125f~+125f (1fステップ)	0f	31
INDEX INC	インデックスインクリメントモードのオン/オフを設定	OFF, ON	OFF	33
INDEX OO TIME	録音を始める際のINDEX OO部分の長さを設定	0s~4s (1sステップ)	0s	34

CD TEXT (ドライブ2のみ、設定項目なし)

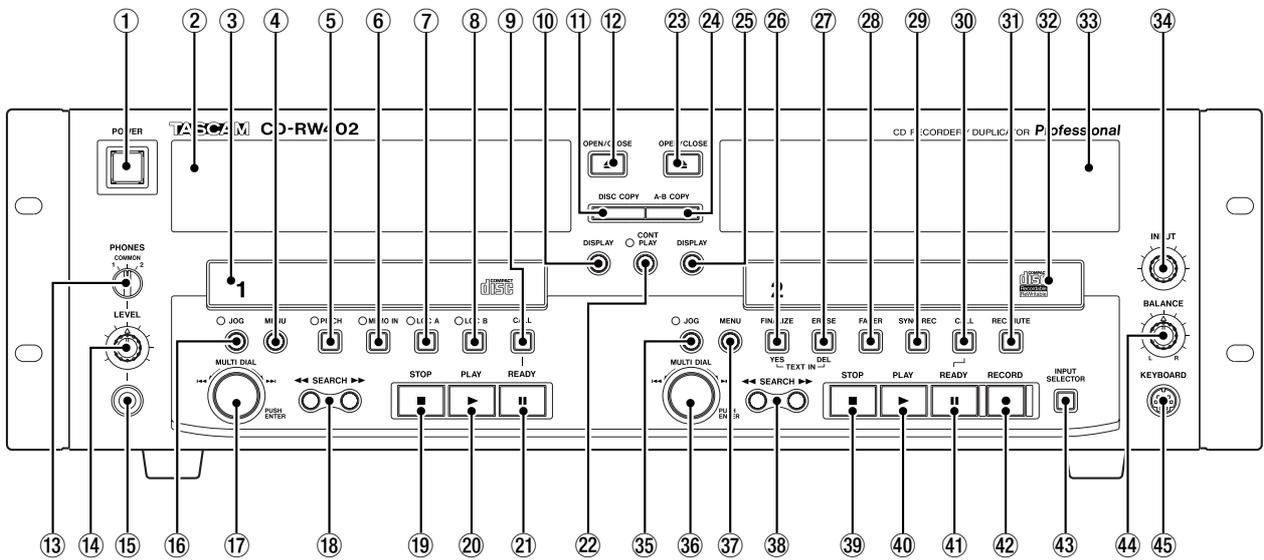
メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
TITLE EDIT	トラックタイトルの編集			35
ARTIST EDIT	アーティスト名の編集			35
TEXT STORE	テキストデータを本機のメモリーに保存			37
TEXT RESTORE	本機のメモリーに保存したテキストデータの呼び出し			37

TOC EDIT (ドライブ1のみ、設定項目なし)

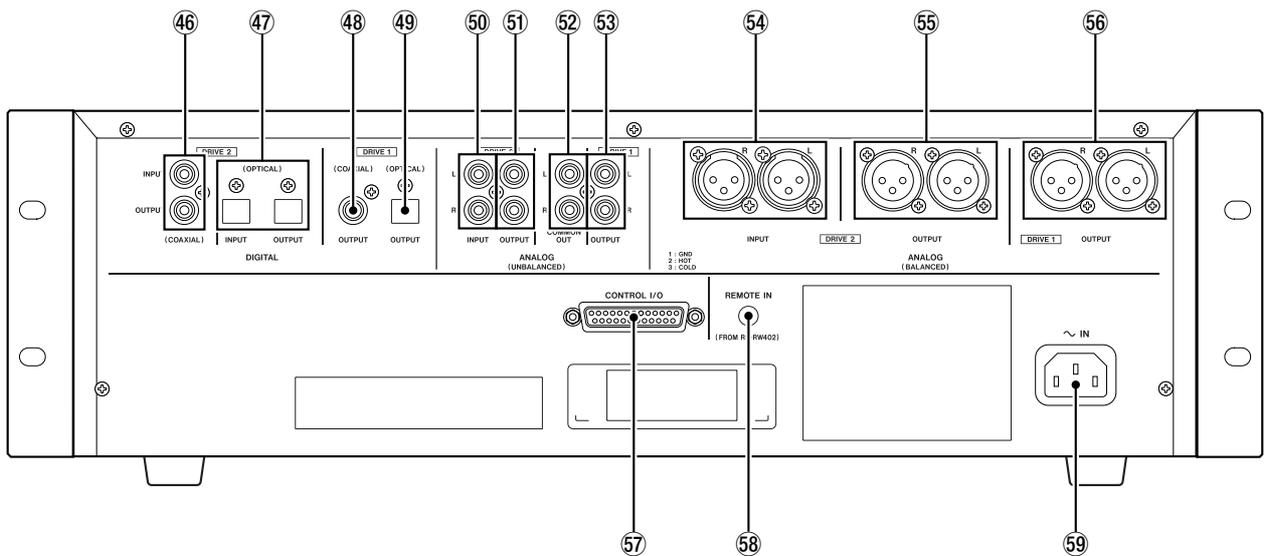
メニュー項目	内容	選択肢	初期設定	参照ページ
DIVIDE	トラックの分割			24
COMBINE	トラックの結合			24
START Pt SET	トラックの開始点の設定			25
END Pt SET	トラックの終了点の設定			25
ERASE TRACK	仮想TOCからトラックを消去			25
ALL CANCEL	仮想TOCのキャンセル (実際のTOCに復帰)			25

第3章 各部の名称と働き

フロントパネル



リアパネル



フロントパネル

① 電源スイッチ

電源をオン/オフします。

② ディスプレイ (ドライブ1用)

トランスポート状態、選択中の入力ソース、録音/再生信号レベル、メニューなどを表示します。

③ ディスクトレイ (ドライブ1用)

ディスクをセットします。

④ MENUキー (ドライブ1用)

ドライブ1用のメニューを表示します。

⑤ PITCHキー/インジケータ

PITCHキーを押してインジケータを点灯させると、ピッチメニューで設定したピッチコントロール値で再生が行なわれます (ピッチコントロール範囲は約±9.9%です)。

⑥ MEMO INキー/インジケータ

MEMO INキーを押してインジケータを点灯させると、AおよびBポイントを設定することができます。

⑦ LOC Aキー/インジケータ

MEMO INインジケータが点灯中にLOC Aキーを押すと、現在の再生位置がAポイントとして登録され、インジケータが点灯します。

MEMO INインジケータが消灯中でLOC Aインジケータが点灯中にLOC Aキーを押すと、Aポイントにロケートします。

⑧ LOC Bキー/インジケータ

MEMO INインジケータが点灯中にLOC Bキーを押すと、現在の再生位置がBポイントとして登録され、インジケータが点灯します。

MEMO INインジケータが消灯中でLOC Bインジケータが点灯中にLOC Bキーを押すと、Bポイントにロケートします。

⑨ CALLキー (ドライブ1用)

最後に、一時停止状態から再生を開始したポイントにロケートして一時停止状態になります。[→ 22ページ「CALL機能」]

⑩ DISPLAYキー (ドライブ1用)

時間表示モードを切り換えます。

⑪ DISC COPYキー

ドライブ1からドライブ2へのディスクコピー (まるごとコピー) あるいはPGMコピー (プログラム曲順のコピー) をするときに使います。

⑫ OPEN/CLOSEキー (ドライブ1用)

ディスクトレイを開閉します。

⑬ PHONES モニタースイッチ

ヘッドホンモニターのソースを選択します。“1”はドライブ1、“2”はドライブ2のモニターです。“COMMON”に設定すると再生している方のドライブのモニターになりますが、ドライブ1、2両方を再生している場合はドライブ1のモニターになります。

⑭ PHONES LEVELつまみ

ヘッドホンの音量を調整します。

⑮ ヘッドホン端子

ステレオヘッドホンを接続します (6φ標準ジャック)。

⑯ JOGキー/インジケータ (ドライブ1用)

JOGキーを押してインジケータを点灯するとジョグモードになり、MULTI DIALを使ってドライブ1のディスクの再生位置を微調整することができます。[→ 19ページ「ジョグ機能」]

⑰ MULTI DIAL (ドライブ1用)

このダイヤルを回して、メニューグループやメニュー項目あるいはパラメータ値を選択します。また選択後にこのダイヤルを押して決定 (確定) をします。また再生するトラックを選択するときにも使います。

⑱ SEARCH (◀◀/▶▶) キー (ドライブ1用)

それぞれ早送りと早戻しを行ないます。

⑲ STOPキー (ドライブ1用)

再生を停止します。

⑳ PLAYキー (ドライブ1用)

再生を始めます。

㉑ READYキー (ドライブ1用)

再生を一時停止します。

㉒ CONT PLAYキー/インジケータ

CONT PLAYキーを押してインジケータを点灯させると、ドライブ1とドライブ2が連続再生されます。

㉓ OPEN/CLOSEキー (ドライブ2用)

ディスクトレイを開閉します。

㉔ A-B COPYキー

ドライブ1からドライブ2へのA-Bコピー (指定したポイント間のコピー) あるいは、A-B EXCLコピー (指定したポイント間を除いてコピー) をするときに使います。

㉕ DISPLAYキー (ドライブ2用)

時間表示モードを切り換えます。

㉖ FINALIZEキー

録音可能ディスクをファイナライズするときに使います。またディスク/トラックのタイトルを入力するときには確定キーとして使います。

第3章 各部の名称と働き

⑳ ERASEキー

CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。またディスク/トラックのタイトルを入力するときに削除キーとして使います。

㉑ FADERキー

録音時にこのキーを押すと、フェードインまたはフェードアウトを行ないます。

㉒ SYNC RECキー

シンク録音を行なうときに使います。[→ 29ページ「SYNC REC機能」]

㉓ CALLキー（ドライブ2用）

最後に、一時停止状態から再生を開始したポイントにロケートして一時停止状態になります。[→ 22ページ「CALL機能」]

㉔ REC MUTEキー

録音中にこのキーを押すと、数秒間の無信号録音を行なった後に録音待機状態になります。

なお無信号録音する時間はメニューで設定できます。

㉕ ディスクトレイ（ドライブ2用）

ディスクをセットします。

㉖ ディスプレイ（ドライブ2用）

トランスポート状態、選択中の入力ソース、録音/再生信号レベル、メニューなどを表示します。

㉗ INPUTつまみ

アナログ入力を録音ソースにしたとき、入力レベルを調節します。

㉘ JOGキー/インジケータ（ドライブ2用）

JOGキーを押してインジケータを点灯させるとジョグモードになり、MULTI DIALを使ってドライブ2のディスクの再生位置を微調整することができます。[→ 19ページ「ジョグ機能」]

㉙ MULTI DIAL（ドライブ2用）

このダイヤルを回して、メニューグループやメニュー項目あるいはパラメータ値を選択します。また選択後にこのダイヤルを押して決定（確定）をします。

また再生するトラックを選択するときにも使います。

㉚ MENUキー（ドライブ2用）

ドライブ2用のメニューを表示します。

㉛ SEARCH（◀◀ / ▶▶）キー（ドライブ2用）

それぞれ早送りと早戻しを行ないます。

㉜ STOPキー（ドライブ2用）

再生を停止します。

㉝ PLAYキー（ドライブ2用）

再生を始めます。

㉞ READYキー（ドライブ2用）

再生を一時停止します。

㉟ RECORDキー

録音待機状態になります。

㊱ INPUT SELECTORキー

録音ソース（アナログ入力、デジタル入力またはドライブ1）を切り換えます。

㊲ BALANCEつまみ

アナログ入力を録音ソースにしたとき、左右のバランスを調節します。

㊳ KEYBOARD端子

外部キーボードを接続します。

初期設定はUSキーボード用に設定されています。USキーボードは日本語用のキーボードとキー配列が異なるため、日本語キーボードを使う場合はメニューを使って設定を変えてください。[→ 44ページ「キーボードタイプの設定」]

リアパネル

DIGITAL入出力部

㊴ COAXIAL INPUT / OUTPUT端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のデジタル入力/出力端子（コアクシヤル）です。入力信号フォーマットはAES3-1992（TYPE I）とIEC 60958 Type II（S/PDIF）の両方に対応しています（自動検出）。出力信号フォーマットはIEC60958 Type II（S/PDIF）です。

入力段にサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、入力端子からはサンプリングレート32kHz～48kHzの範囲のデジタル信号を入力することができます。

㊵ OPTICAL INPUT / OUTPUT端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のデジタル入力/出力端子（オプティカル）です。入力信号フォーマットはAES3-1992（TYPE I）とIEC 60958 Type II（S/PDIF）の両方に対応しています（自動検出）。出力信号フォーマットはIEC60958 Type II（S/PDIF）です。

入力段にサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、入力端子からはサンプリングレート32kHz～48kHzの範囲のデジタル信号を入力することができます。

㊶ COAXIAL OUTPUT端子 (DRIVE 1)

ドライブ1用のデジタル出力端子（コアクシヤル）です。信号フォーマットはIEC60958 Type II（S/PDIF）です。

④9 OPTICAL OUTPUT 端子 (DRIVE 1)

ドライブ1用のデジタル出力端子（オプティカル）です。信号フォーマットはIEC60958 Type II (S/PDIF) です。

ANALOG (UNBALANCED) 入出力部

⑤0 INPUT 端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のアナログ入力端子（RCAピンジャック）です。基準レベルは-10dBVです。

⑤1 OUTPUT 端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のアナログ出力端子（RCAピンジャック）です。基準レベルは-10dBVです。

⑤2 COMMON OUT 端子

ドライブ1、2共用のアナログ出力端子（RCAピンジャック）です。基準レベルは-10dBVです。
PHONES モニタースイッチの“COMMON”設定と同じように、再生中のドライブの信号が出力されますが、ドライブ1、2両方を再生している場合はドライブ1の再生信号が出力されます。

⑤3 OUTPUT 端子 (DRIVE 1)

ドライブ1用のアナログ出力端子（RCAピンジャック）です。基準レベルは-10dBVです。

ANALOG (BALANCED) 入出力部

⑤4 INPUT 端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のアナログ入力端子（XLRバランス）です。基準レベルは+4dBuです。

⑤5 OUTPUT 端子 (DRIVE 2)

ドライブ2用のアナログ出力端子（XLRバランス）です。基準レベルは+4dBuです。

⑤6 OUTPUT 端子 (DRIVE 1)

ドライブ1用のアナログ出力端子（XLRバランス）です。基準レベルは+4dBuです。

メモ

XLR 端子のピン配列はすべて、1 = グランド、2 = ホット、3 = コールドです。

その他の接続端子

⑤7 CONTROL I/O 端子

Dサブ25ピンコネクタで、本機のドライブを外部からパラレルコントロールするときに使います。ピン配列の詳細については「第9章 外部コントロール」をご覧ください。

⑤8 REMOTE IN 端子

リモコン（RC-RW402）を接続します。

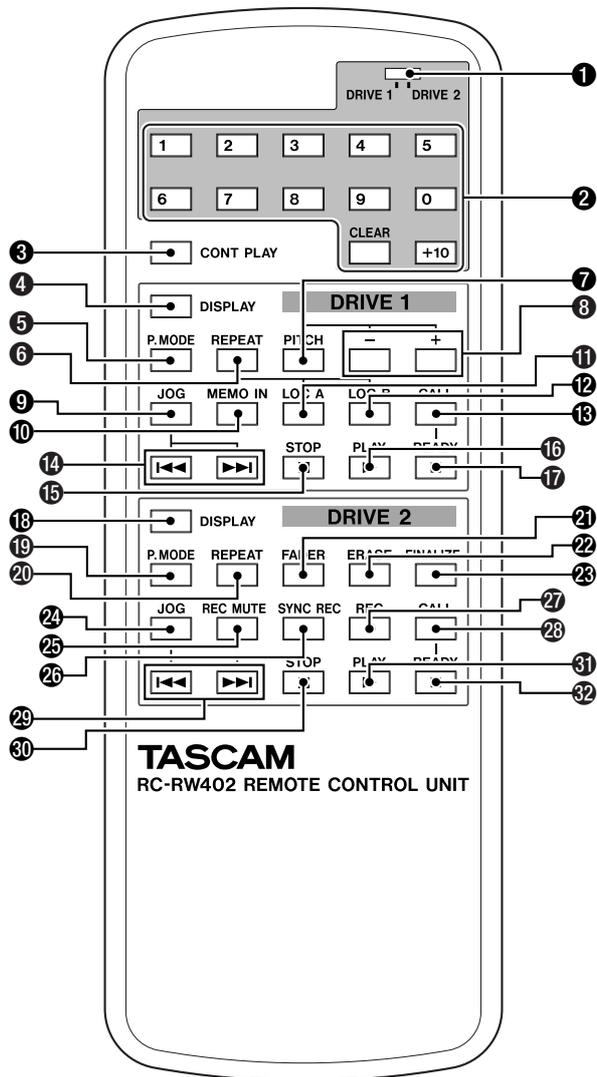
メモ

RC-RW402以外のリモコンを接続しないでください。故障の原因になる場合があります。

⑤9 ~ IN

電源コードを接続します。

RC-RW402 (リモコン)



① DRIVE 1/DRIVE 2 スイッチ

テンキー (CLEAR キーを含む) の操作対象ドライブを選択します。

② テンキー (1~9, +10, CLEAR)

再生トラックの選択やプログラム再生設定時のトラック指定に使います。

③ CONT PLAY キー

このキーを押して本体のCONT PLAY インジケータを点灯させると、ドライブ1とドライブ2が連続再生されます。

Drive 1 機能

以下のキーはドライブ1に対してのみ働きます。

④ DISPLAY キー

時間表示モードを切り換えます。

⑤ P.MODE キー

再生モード (シャッフル、プログラム、ノーマル) を切り換えます。

なおメニューを使って再生モードを切り換えることもできます。

⑥ REPEAT キー

リピートモード (全曲リピート、1曲リピート) を切り換えます。

なおメニューを使ってリピートモードを切り換えることもできます。

⑦ PITCH キー

ピッチコントロールのオン/オフを切り換えます。

オンのときは本体のPITCHインジケータが点灯します。

⑧ PITCH (+, -) キー

ピッチコントロールをオンにしたときのピッチを設定します。

可変ピッチ幅は±9.9%です。

⑨ JOG キー

このキーを押して本体のJOGインジケータを点灯させるとジョグモードになり、本体のMULTI DIALを使ってドライブ1のディスクの再生位置を微調整することができます。

⑩ MEMO IN キー

このキーを押して本体のMEMO IN インジケータを点灯させると、AおよびBポイントを設定することができます。

⑪ LOC A キー

本体のMEMO IN インジケータが点灯中にLOC Aキーを押すと、現在の再生位置がAポイントとして登録され、本体のLOC A インジケータが点灯します。

本体のMEMO IN インジケータが消灯中でLOC A インジケータが点灯中にLOC Aキーを押すと、Aポイントにロケートします。

⑫ LOC B キー

本体のMEMO IN インジケータが点灯中にLOC Bキーを押すと、現在の再生位置がBポイントとして登録され、本体のLOC B インジケータが点灯します。

本体のMEMO IN インジケータが消灯中でLOC B インジケータが点灯中にLOC Bキーを押すと、Bポイントにロケートします。

⑬ CALL キー

最後に、一時停止状態から再生を開始したポイントにロケートして一時停止状態になります。[→ 22 ページ 「CALL 機能」]

⑭ ◀▶ キー

これらのキーを押すと、(メニュー操作時を除いて) MULTI DIAL を回したときと同じ動作になります。トラックスキップ、ジョグ位置の移動などに使うことができます。

⑮ STOP キー

再生を停止します。

⑩ PLAYキー（ドライブ1用）

再生を始めます。

⑪ READYキー（ドライブ1用）

再生を一時停止します。

Drive 2機能

以下のキーはドライブ2に対してのみ働きます。

⑫ DISPLAYキー

時間表示モードを切り換えます。

⑬ P.MODEキー

再生モード（シャッフル、プログラム、ノーマル）を切り換えます。

なおメニューを使って再生モードを切り換えることもできます。

⑭ REPEATキー

リピートモード（全曲リピート、1曲リピート）を切り換えます。

なおメニューを使ってリピートモードを切り換えることもできます。

⑮ FADERキー

録音時にこのキーを押すと、フェードインまたはフェードアウトを行ないます。

⑯ ERASEキー

CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。

⑰ FINALIZEキー

録音可能ディスクをファイナライズするときに使います。

⑱ JOGキー

このキーを押して本体のJOGインジケータを点灯するとジョグモードになり、本体のMULTI DIALを使ってドライブ2のディスクの再生位置を微調整することができます。

⑲ REC MUTEキー

録音中にこのキーを押すと、数秒間の無信号録音を行なった後に録音待機状態になります。

なお無信号録音する時間はメニューで設定できます。

⑳ SYNC RECキー

シンク録音を行なうときに使います。

[→ 29ページ「SYNC REC機能」]

㉑ RECキー

録音待機状態になります。

㉒ CALLキー

最後に、一時停止状態から再生を開始したポイントにロケートして一時停止状態になります。[→ 22ページ「CALL機能」]

㉓ ◀▶キー

これらのキーを押すと、MULTI DIALを回したときと同じ動作になります。トラックスキップ、ジョグ位置の移動などに使うことができます。

㉔ STOPキー

再生を停止します。

㉕ PLAYキー（ドライブ2用）

再生を始めます。

㉖ READYキー（ドライブ2用）

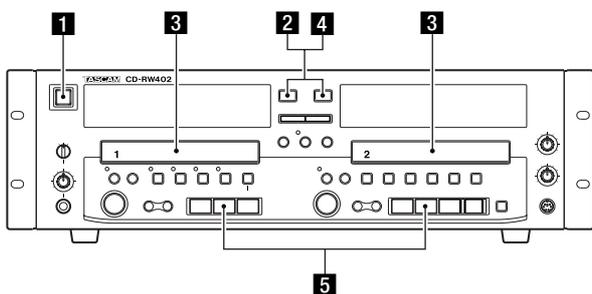
再生を一時停止します。

第4章 再生

本章ではディスクの再生機能を説明します。どちらかのドライブのみの機能の場合は（ドライブ1のみ）のように見出しに表示します。なお本機のドライブ2では、通常の（ファイナライズ済みの）CD、CD-R、CD-RWディスクの他に、ファイナライズしていないディスクも再生することができます。ドライブ1ではファイナライズ済みのディスクしか再生できません。

- CD-RWディスクの中にはごく稀に本機のドライブ1で再生できないものがあります。そのような場合はドライブ2を使って再生してください。

基本的な再生



- 1 POWERキーを押して電源を入れます。
 - 2 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開けます。
 - 3 ディスクのレーベル面を上にしてトレイに載せます。
 - 4 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを閉めます。
- “TOC Reading” を表示した後、ディスクの種類、総トラック数、総再生時間を表示します。
 - トラック番号を示すインジケータがディスプレイの下側に、最大20まで点灯します。ディスクの総トラック数が21以上の場合は [OVER] が点灯します。トラックの再生が終了するとインジケータが消えてゆきます。

ディスクの種類は以下のように表示されます。

CD : 市販のCD およびファイナライズ済のCD-R
CD-R : CD-R
CD-RW : CD-RW
NO TOC : ファイナライズしていないCD-R またはCD-RW

- 5 PLAYキーを押して再生を始めます。

再生を止めるには

STOPキーを押します。

再生を一時停止するには

READYキーを押します。
もう一度PLAYキーまたはREADYキーを押すと、再び再生が始まります。

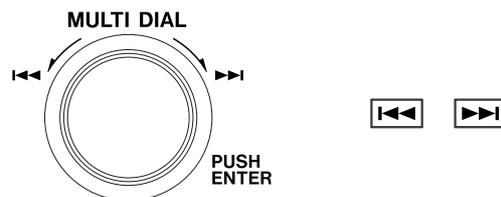
ディスクを取り出すには

OPEN/CLOSEキーを押します。
再生を停止してディスクトレイが開きます。

サーチと頭出し

トラックスキップ

本体のMULTI DIALを右/左に回すと、フォワード方向/リバース方向にトラックがスキップします。
リモコンでは、◀◀/▶▶キーを使います。



- 停止状態からトラックを選ぶと、スキップ後に一時停止状態になります。
- 再生状態から操作すると、スキップ後に再生を始めます。
- プログラムモード再生中は、プログラムした曲の中でスキップを行います。
- ディスクの最初のトラックでMULTI DIALを左に回すと、最後のトラックにスキップします。最後のトラックでMULTI DIALを右に回すと、最初のトラックにスキップします。

テンキーによるトラック指定

リモコンのテンキーを押すと、ダイレクトにトラックを選択できます。
トラック番号が2桁の場合、+10キーを必要な回数押して10の位の数字を設定し、それから0~9キーで1の位の数字を入力します。

例

トラック5 : 5
トラック15 : +10 ⇒ 5
トラック23 : +10 ⇒ +10 ⇒ 3

- プログラムモードでは、プログラムの設定にテンキーを使いますのでサーチには使えません。
- シャッフル再生モードでは操作できません。
- 存在しないトラックは受け付けません。

サーチ

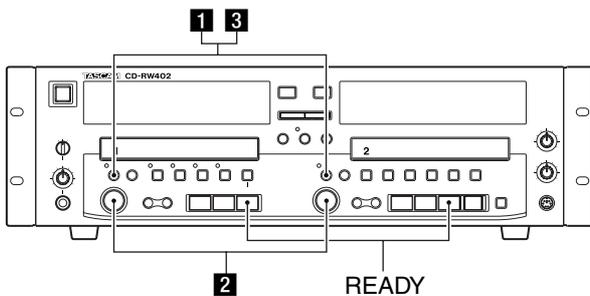
本体のSEARCH (◀◀/▶▶) キーまたはリモコンの◀◀/▶▶キーを押し続けると、フォワード方向/リバース方向にディスクをサーチします。



本体のSEARCH (◀◀/▶▶) キーをポンと押すと、1分ほどフォワード方向/リバース方向にスキップします。

ジョグ機能

ジョグ機能を使って、再生位置をフレーム精度 (1/75 秒精度) で正確に頭出しすることができます。ディスクの一部分をコピーするときや正確に再生を始めたいとき、あるいはTOCを正確に編集して部分消去や部分抽出をするときなどに役立ちます。



1 希望の位置付近を再生中または一時停止中に、JOG キーを押します (JOG インジケータ点灯)。

ディスプレイに現在の位置がフレーム桁まで表示されます ("0:45:13" のように)。

2 MULTI DIAL を回して (あるいはリモコンのスキップキーを押して)、再生位置を前後に移動します。

操作を停止するとジョグ位置の直前 (プレビュー位置) が繰り返し再生 (ジョグ再生) されます。

MULTI DIAL を1クリック分回すと (リモコンの◀◀/▶▶キーを1回押すと)、1フレーム移動します。MULTI DIAL を回すスピードを上げると移動速度が速くなります。

3 希望の再生位置が見つかったら、JOG キーを押します (インジケータ消灯)。ジョグモードが解除され、ドライブが一時停止状態になります。

- このままPLAYキーを押して再生を始めると、再生を始めたポイントをキューポイントとして記憶します。このキューポイントはコール機能を使って呼び出すことができます。
- ドライブ1の場合は、メモリーポイント機能を使ってAポイントまたはBポイントとしてポイントを記憶させることができます。[→ 22ページ「メモリーポイント機能」]

- プログラム再生中やシャッフル再生中にジョグモードにすると、再生モードがノーマル再生モードになります。[→ 次項「3つの再生モード」]

ジョグ再生の長さを変える

ジョグ再生の長さを12フレーム~99フレームの範囲で設定することができます。デフォルトは16フレームです。

- 1** メニューグループPLAY MENUのメニュー項目JOG LENGTHを表示し、希望の値 (12フレーム~99フレーム) を選択します。

3つの再生モード

本機には以下の3つの再生モードがあります。

シャッフル再生 (ディスクのトラックをランダムに再生)

ディスプレイに [SHUFFLE] が赤く点灯します。

[→ 20ページ「シャッフル再生」]

プログラム再生 (プログラム順に再生)

ディスプレイに [PROGRAM] が赤く点灯します。

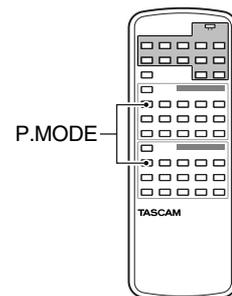
[→ 20ページ「プログラム再生」]

ノーマル再生 (ディスクの最後のトラックまでをトラック順に再生)

ディスプレイに何も点灯しません。

再生モードの切り換えは停止中に行ないます。切り換える方法は2通りあります。

方法1 : リモコンのP.MODE キーを押します。

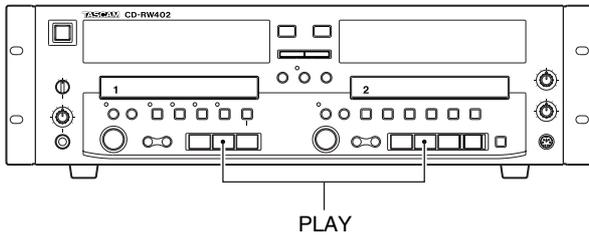


方法2 : メニューグループPLAY MENUのメニュー項目PLAY MODEでモードを選択します。

PMODE>SHUF? (シャッフル再生)、PMODE>PGM? (プログラム再生)、PMODE>CONTI? (ノーマル再生) の中から選択します。

シャッフル再生

ディスクのトラック（曲）をランダムに再生します。



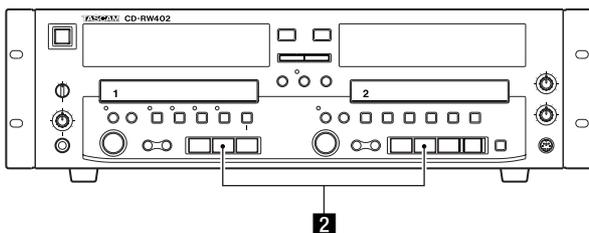
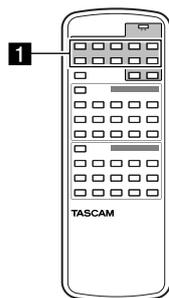
シャッフル再生モード中にPLAYキーを押すとシャッフル再生が始まります。

- ランダム再生中にMULTI DIALを右に1回回すと、次のトラックがランダムに選択されます。
- ドライブ1とドライブ2にまたがるシャッフル再生はできません。

プログラム再生

本機では最大99トラック（曲）を、プログラムした順番に再生することができます。

- 停止時または再生中にプログラムを組めます。
- プログラム再生中はシャッフル再生はできません。
- ドライブ1とドライブ2にまたがるプログラム再生はできません。



- 1 プログラム再生モード中に、リモコンのテンキーを使って希望の順番にトラック番号を入力してゆきます。

トラック番号の入力方法については「テンキーによるトラック指定」（18ページ）をご参照ください。

ディスプレイにプログラムステップ番号とトータル時間が表示されます。

- 2 PLAYキーを押してプログラム再生を始めます。

- 再生中にプログラム再生モードに切り換えたときは、再生中のトラック（曲）がプログラムの一番目になります。
- 停止時にプログラムする場合は、MULTI DIALを使うことができます。MULTI DIALを回してトラックを選び、MULTI DIALを押すとプログラムできます。なお、再生中はMULTI DIALを回すとトラックをスキップします。
- プログラムした曲の合計時間が100分以上になると、“--:--”が表示されます。
- 1曲もプログラムしていない状態でプログラム再生すると、プログラムモードが解除されてディスクの頭からノーマル再生が始まります。
- プログラム再生モードで電源を切ると、次回電源を入れた時にはノーマル再生モードに戻ります。

プログラムに曲を追加するには

リモコンのテンキーを使って追加したいトラック番号を入力します。停止中であれば、MULTI DIALでも追加できます。プログラムの最後に入力したトラックが追加されます。

プログラムの一部を削除するには

リモコンのCLEARキーを押します。

プログラムの最後のトラックが削除されます。

すべてのプログラムを消去するには

次のいずれかを行います。

- リモコンのP.MODEキーを押してプログラム再生モード以外のモードに切り換えます。
- OPEN/CLOSEキーを押します。
- 停止中にSTOPキーを押します。

プログラムした曲をリピート再生するには

プログラムを組んだ後に、REPEATキーを押して全曲リピートモードにします。プログラムした曲が繰り返し再生されます。

リピート機能

本機には2つのリピートモードがあります。

[REPEAT] [ALL] : 全曲リピート

ディスクのすべてのトラック（曲）をリピート再生します。

- プログラムモードでは、プログラムした曲のすべてをリピート再生します。

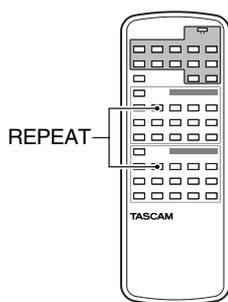
[REPEAT] [1] : 1曲リピート

現在のトラックをリピート再生します。

- 1曲リピート再生中に他のトラックを選ぶと、選んだトラックのリピート再生に変わります。
- 停止時、1曲リピートモードに設定してから、トラックを選択して再生すると、選んだトラックをリピート再生します。

リピートモードを切り換える方法は2通りあります。

方法1 : リモコンのREPEATキーを押します。



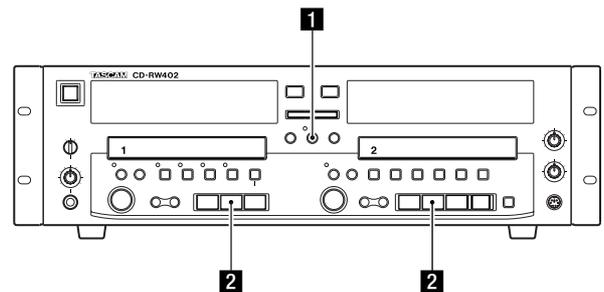
方法2 : メニューグループPLAY MENUのメニュー項目 REPEAT MODEでモードを選択します。

REPEAT>OFF? (リピートオフ)、REPEAT>ALL? (全曲リピート)、REPEAT>1? (1曲リピート) の中から選択します。

- リピートは、終了させるまで何回でも続きます。

交互連続再生

交互連続再生モードではドライブ1とドライブ2の交互連続再生を行なうことができます。たとえばドライブ1から再生を始めた場合、ドライブ1の再生が終了するとドライブ2の再生が始まり、ドライブ2の再生が終了すると、再びドライブ1の再生が始まるといったように、ドライブ1とドライブ2が交互に再生を行ないます。



1 本体のCONT PLAYキーを押します。

CONT PLAYインジケータが点灯し、交互連続再生モードになります。

どちらかのドライブが再生中であれば、そのまま交互連続再生が始まります。

2 両方のドライブが停止中であれば、どちらかのドライブのPLAYキーを押して交互連続再生を始めます。

- 交互連続再生では、アナログのCOMMON OUT端子を使うと常に再生信号をモニターできます。
- 交互連続再生中、再生していない方のドライブのディスクを交換したり、プログラムを組むことができます。
- CONT PLAYキーを押して交互連続再生モードに入っても、各ドライブごとに設定された再生モード（通常モード/シャッフルモード/プログラムモード）は保持されます。
- 同様に、各ドライブにリピートモード（REPEAT 1またはALL）が設定されている場合も保持されます。したがって、例えばドライブ1にリピート（1またはALL）が設定されていた場合、ドライブ1はリピートを解除しないかぎり再生を終了しませんので、ドライブ2に再生が移行しません。

交互連続再生を終了するには

再びCONT PLAYキーを押してCONT PLAYインジケータを消灯させるか、あるいは再生中のドライブのSTOPキーを押します。交互連続再生は、終了させるまで何回でも続きます。

CALL 機能

CALL キーを押すと、最後に、一時停止状態から再生を開始した位置（キューポイント）を頭出しして、一時停止状態になります。

- シャッフル再生モード時は機能しません。

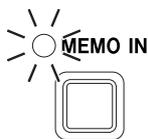
メモリーポイント機能（ドライブ1のみ）

ドライブ1では、任意の2つのポイントをメモリー（AポイントおよびBポイント）に記憶して、後からその位置にロケートすることができます。

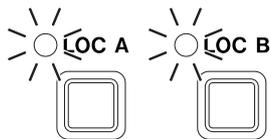
- メモリーポイント機能はノーマル再生モード時にのみ有効です。プログラム再生モード中やシャッフル再生モード中には働きません。
- このメモリーポイントはA-BコピーやA-B EXCLコピーの際の始点と終点としても使われます。

メモリーポイントを設定する

- 1 「サーチと頭出し」で述べた方法を使って、ポイントを設定したい位置で再生待機状態にします。
- 2 MEMO IN キーを押します（インジケータ点灯）。



- 3 LOC A（またはLOC B）キーを押します。



ポイントが記憶され、LOC A（またはLOC B）インジケータが点灯します。

ロケートする

- 1 停止中、再生中、または再生一時停止中にLOC A（またはLOC B）キーを押します。
メモリーポイントにロケートして、再生一時停止状態になります。
LOC A（またはLOC B）インジケータが消灯しているときはメモリーポイントが記憶されていないので、ロケート動作が行われません。

メモリーポイントを変更するには

ノーマル再生モード時に上記の手順で新しいメモリーポイントを上書きします。
オーバーライト方式ですので以前のメモリーポイントは消えます。
何回でもオーバーライトすることができます。

メモリーポイントを消去するには

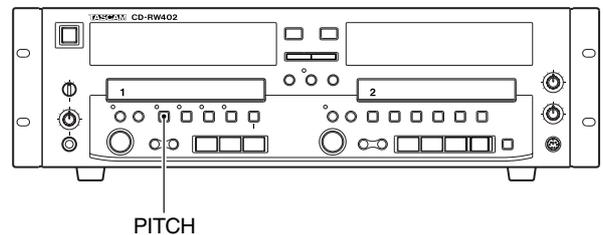
停止状態で、MEMO INキーを押してからLOC A（またはLOC B）キーを押します。

LOC A（またはLOC B）インジケータが消灯して、ポイントを消去したことを示します。

ピッチコントロール（ドライブ1のみ）

ドライブ1の再生ピッチを±9.9%の範囲で設定することができます。

ピッチコントロールのオン/オフ

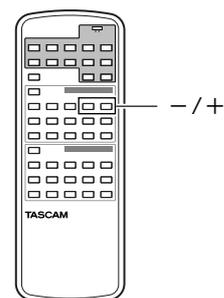


PITCHキーを押してピッチコントロールのオン/オフを行ないます。オン時にPITCHインジケータが点灯します。

ピッチの設定

ピッチの設定方法は2通りあります。

方法1：リモコンのPITCH +/-キーを使います。

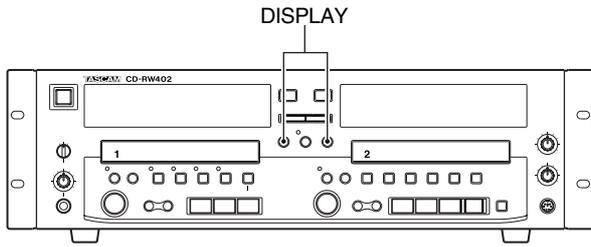


方法2：メニューグループPLAY MENUのメニュー項目PITCHでピッチ値を設定します。

メモ

PITCHインジケータが消灯中（ピッチコントロール無効）でもピッチを可変することができます。

表示モード



CD再生時、4種類の時間表示モードがあります。
またCD TEXT（タイトル、アーティスト名）を表示することができます。
DISPLAYキーを押して表示モードを切り換えます。

【表示なし】

現在のトラックの経過時間を表示します。

【REMAIN】

現在のトラックの残り時間を表示します。

【TOTAL】

ディスクの経過時間を表示します。

【TOTAL REMAIN】

ディスクの残り時間を表示します。

【TITLE】

タイトルが登録されているディスクの場合、タイトルを表示します。

【ARTIST】

アーティスト名が登録されているディスクの場合、アーティスト名を表示します。

- プログラムモードでは、ディスク全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

オートレディ機能

現在のトラックを再生した後、次トラックの始まりを検出して一時停止状態になる機能です。

設定方法：

メニューグループPLAY MENUのメニュー項目AUTO READYでON/OFFを選択します。

ONに設定するとディスプレイに [A-READY] が点灯します。

- オートキュー機能と組み合わせると、次トラックの始まりではなく音の立ち上がり位置を検出して一時停止状態になります。
- REPEAT1モードの場合、繰り返し再生するトラックの始まりで一時停止状態になります。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、再生するトラックを選択して一時停止状態にしたとき、トラックの実際の音の立ち上がり位置を自動検出して一時停止状態になります。そのため再生を始めた直後に音が出ます。

オートキューではオーディオ信号検出のサウンドレベルを設定できます。

設定方法：

メニューグループPLAY MENUのメニュー項目AUTO CUEで、以下の中から選択します。

OFF、-72dB、-66dB、-60dB、-54dB、-48dB、
-42dB、-36dB、-30dB、-24dB

OFF以外はすべてオートキュー・オンで、そのときのサウンドレベル設定になります。

- AUTO CUE ポイントサーチ中は、ディスプレイに [READY] インジケータが点灯し、[PLAY] インジケータが点滅します。

インクリメンタルプレイ

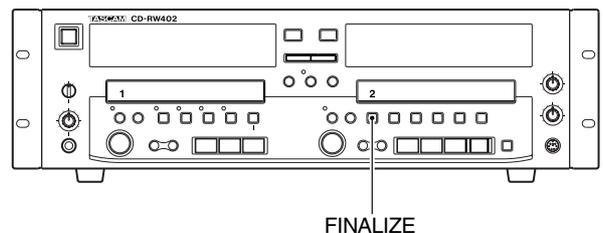
インクリメンタルプレイをオンにすると、

- トラックの再生中にPLAYキーを押すと、次のトラックの再生が始まります。
- トラックの再生中にSTOPキーを押すと、次のトラックの始まりで再生一時停止状態になります。

設定方法：

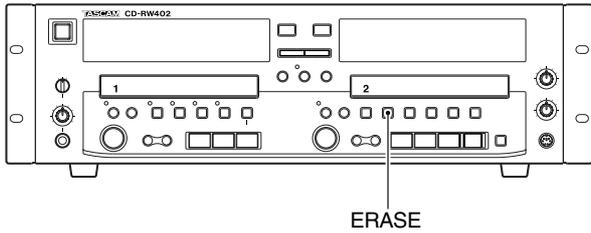
メニューグループPLAY MENUのメニュー項目INC PLAYで、ONまたはOFFを選択します。

ISRCの表示（ドライブ2のみ）



ドライブ2を再生中にFINALIZEキーを押すことによって、ISRCコード（International Standard Recording Code）を表示することができます。

RIDの表示（ドライブ2のみ）



ドライブ2を再生中にERASEキーを押すことによって、再生中のトラックのRIDコード（Recorder identification Data）を表示することができます。

RIDコードの最初の3桁はメーカーコード、次の4桁はタイプコード、最後の5桁はレコーダーごとに割り当てられるコードです。

EOMタリタイムの設定

再生トラックの終了を知らせるEOMタリーの出力タイミングを設定します。

EOMの時間は、0秒～99秒で1秒単位で設定できます。0秒に設定するとEOMタリーが出力されません。

設定方法：

メニューグループPLAY MENUのメニュー項目EOM TIMEで、時間（0s～99s）を設定します。

TOC編集機能（ドライブ1のみ）

ドライブ1に挿入されているディスク（再生専用ディスクを含む）のTOC（Table Of Contents）に対して、MDと同じような編集を行なうことができます。（CD-ROMやデータトラックを除く）ただし本機のメモリーを使った擬似編集ですので、ディスクを取り出したり電源を切ると編集内容は消去されてしまいます。TOCを書き換えることはできません。

TOC編集の内容はディスクコピー時にも反映されますので、あらかじめドライブ1でTOC編集をしておいたディスクのコピーディスクを作成する時などに便利です。

- TOC編集を行なうと、ドライブ1の[NO TOC]表示が点滅します。

TOC編集機能には以下の種類があります。

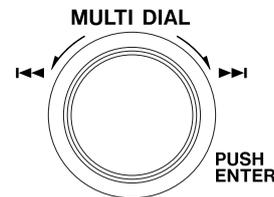
DIVIDE：	トラックを分割する
COMBINE：	トラックをつなげる
START Pt SET：	トラックの先頭位置の設定
END Pt SET：	トラックの終了位置の設定
ERASE TRACK：	トラックを消去する

個々の編集操作を説明する前に、共通の操作について説明しておきます。

- DIVIDE、COMBINE、ERASE TRACKは、再生中、再生一時停止中、ジョグ動作中に有効です。それ以外の場合、メニュー項目として表示されません。
- 各OK?表示中にMENUキーを押すと項目選択表示に戻ります。
- 各OK?表示中にSTOPキーを押すと停止状態になり、メニュー表示がキャンセルされます。

トラックを分割する（DIVIDE）

- 1 ジョグ機能などを使って、あらかじめ分割するポイントを決めます。
- 2 メニューグループTOC EDITのメニュー項目DIVIDE?を表示してMULTI DIALを押します。



DIVIDE OK?が表示されます。

- 3 MULTI DIALを押します。

これでトラックの分割作業が終了します。

トラックをつなげる（COMBINE）

指定したトラックと、その手前のトラックをつないで1つのトラックにします。例えば、トラック2を指定した場合、トラック1とつながります。

- 1 つなげたいトラックの頭で再生一時停止状態にします。
- 2 メニューグループTOC EDITのメニュー項目COMBINE?を表示して、MULTI DIALを押します。

COMBINE OK?が表示されます。

- 3 MULTI DIALを押します。

手前のトラックとつながり、そのトラックの頭で再生一時停止状態になります。

- 1トラック目を指定することはできません（手前のトラックがないため）。
- 手前のトラックにCD TEXTが入っている場合は、そのCD TEXTが新しいトラックのCD TEXTになります。
- エンファシスのオン/オフ設定が異なるトラックをつなげることはできません。

トラックの先頭位置を設定する (START Pt SET)

現在の位置をそのトラックの先頭にすることができます。本来の先頭位置から現在の位置までの領域は消去されます。

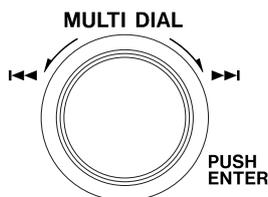
- 1 JOGなどを使ってあらかじめトラックの先頭位置を決めます。
- 2 メニューグループ TOC EDIT のメニュー項目 START Pt SET? を表示して、MULTI DIAL を押します。
Pt SET OK? が表示されます。
- 3 MULTI DIAL を押します。

そのポイントがトラックの開始位置になります。

トラックの終了位置を設定する (END Pt SET)

現在の位置を、そのトラックの最後にすることができます。現在の位置から本来の終了位置までの領域は消去されます。

- 1 JOGなどを使ってあらかじめトラックの終了位置を決めます。
- 2 メニューグループ TOC EDIT のメニュー項目 END Pt SET? を表示して、MULTI DIAL を押します。



Pt SET OK? が表示されます。

- 3 MULTI DIAL を押します。

そのポイントがトラックの終了位置になります。

トラックを消去する (ERASE TRACK)

指定したトラックを消去することができます。MDと同様、途中のトラックでも消去可能です。

- 1 消去したいトラックの頭で再生一時停止状態にします。
- 2 メニューグループ TOC EDIT のメニュー項目 ERASE TRACK? を表示して、MULTI DIAL を押します。
ERASE OK? が表示されます。
- 3 MULTI DIAL を押します。

指定したトラックが消去されます。

編集を全てキャンセルする (ALL CANCEL)

本機で行なった TOC 編集を全てキャンセルし、オリジナルディスクの状態に戻します。

- 1 停止中にメニューグループ TOC EDIT のメニュー項目 ALL CANCEL? を表示して、MULTI DIAL を押します。
CANCEL OK? が表示されます。
 - 2 MULTI DIAL を押します。
編集が全てキャンセルされます。
- ALL CANCEL を行うと、ドライブ 1 の [NO TOC] 表示が消灯します。

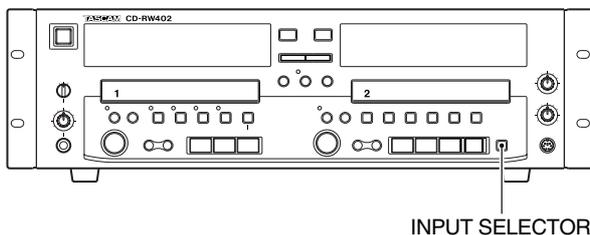
第5章 録音

録音の前に

本機のドライブ2を使ってCD-RやCD-RWディスクへの録音を行なう前に、以下の注意事項をお読みください。

- CDの規格により99トラック（曲）までしか録音できません。また、4秒以下の曲は録音できません。
- 録音の途中で100曲まで達した場合は、録音を停止します。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になった場合は、フェードアウトした後、録音を停止します。
- 途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済み部分の終わりから続けて録音します。
- ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、一度アンファイナライズします。[→ 28ページ「ファイナライズ」]
- シンク録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルに従って録音を開始し、曲を区切ります。このため、冒頭や曲間に無音部分があるソースを録音すると、一曲当たりの長さ(再生時間)がソースと一致しないことがあります。

入力信号の選択



INPUT SELECTORキーを押して入力信号を選択します。選択中の入力信号を示す表示がディスプレイ右上に点灯します。

[ANALOG]

ANALOG INPUT 端子からの入力です。

[DIGITAL] [OPTICAL]

DIGITAL INPUT (OPTICAL) 端子からの入力です。

[DIGITAL] [COAXIAL]

DIGITAL INPUT (COAXIAL) 端子からの入力です。

[表示点灯なし]

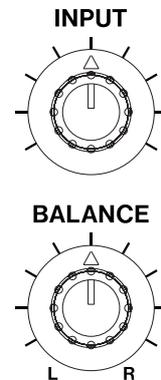
ドライブ1の再生信号です。

メモ

INPUT SELECTORキーによって、アナログのBALANCED端子とUNBALANCED端子間の選択はできません。必ずどちらか一方の使用する端子のみを接続してください。

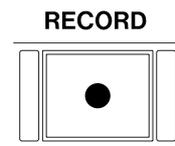
入力信号の調整

- アナログ信号の入力レベルはINPUTつまみで、また左右バランスはBALANCEつまみで調整します。



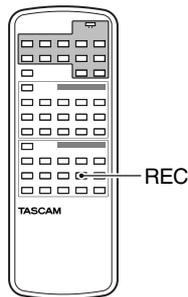
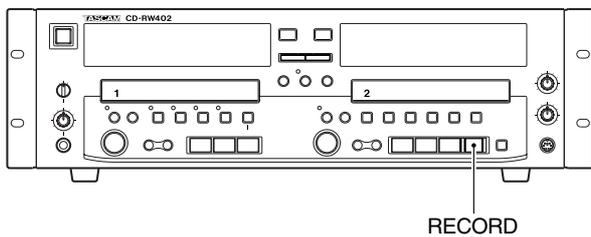
- デジタル信号及びドライブ1の信号は、下記のようにデジタルボリュームを使って調整します（アナログ信号入力時もデジタルボリュームは機能します）。

- 1 RECORDキーを押して録音一時停止状態にします。



- 2 メニューグループREC MENUのメニュー項目VOLUMEで、レベルを-60dB～+18dBの範囲で設定します。“--dB”で信号を完全にカットします。

入力信号のモニター



ディスク未挿入時または録音できないディスクが入っているときに、RECORDキーを押すと、入力信号のモニター状態になります。このときディスプレイに [MONITOR] を表示します。

メーターは入力信号のレベルを表示します。

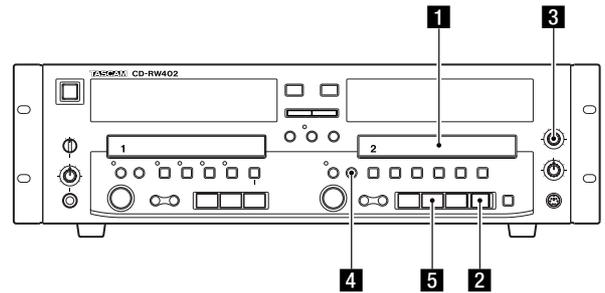
- モニター状態でも、デジタルのレベル調整ができます。
- 入力モニターを解除するにはSTOPキーを押します。

サンプリング周波数コンバーター

CDのサンプリングレートは44.1kHzですので、本機は常に44.1kHzで録音します。

ただし、異なるサンプリングレートの信号やピッチコントロールのかかった信号を入力した場合は、本機内蔵のサンプリング周波数コンバーターが44.1kHzに変換して録音します。

基本的な録音



入力信号の選択を行なった後 [→ 26ページ「入力信号の選択」]、以下の手順で録音を行ないます。

1 録音可能ディスクをセットします。

- ディスプレイに“TOC Reading”が表示された後、セットしたディスクに応じて [CD-R] と [NO TOC]、あるいは [CD-RW] と [NO TOC] が点灯します。

2 RECORDキーを押して録音一時停止状態にします。

[REC] と [■] が点灯し、ディスプレイに“Now OPC”が表示されます。

*OPC = Optimum Power Control

- デジタルソースを選択した場合、ソース機器の電源が切れていたり接続が正しくないとエラーメッセージ“D-IN UNLOCK!”が表示されます。

3 ソースの入力レベルを調整します。

[→ 26ページ「入力信号の調整」]

メーターの [OVER] が点灯しないように調整してください。[OVER] が点灯するとデジタルノイズが発生します。

- CDなどを録音する場合は、原則として、デジタルボリュームを“0dB”にすることを勧めます。ソースCDのダイナミックレンジをクリップなく録音できます。

4 トラック番号の付け方を選びます。[→ 31ページ「オートトラック (自動トラック番号)」]

5 PLAYキーを押して録音を始めます。

録音を止めるには

STOPキーを押します。

ディスプレイの [REC] が点滅し“PMA Writing”を表示してディスクに録音内容を記録します。

録音を一時停止するには

READYキーを押します。

もう一度PLAYキーを押すと、再び録音が始まります。

ディスクを取り出すには

録音を停止してから、OPEN/CLOSEキーを押します。

ご注意

- 一般のCDプレーヤーで再生できるようにするにはファイナライズをしなければなりません。詳しくは次項「ファイナライズ」(28ページ)をご覧ください。

なお本機のドライブ2ではファイナライズしていないディスクを再生することができます(ドライブ1ではできません)。

- “PMA Writing”表示中はディスクに録音内容を記録していません。このためキー操作は受け付けません。

“PMA Writing”表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

*PMA = Program Memory Area

- オーディオCDの規格により、1枚のディスクの最大トラック数は99です。また各トラックの長さは4秒以上でなければなりません。

録音開始後、4秒経過する前に録音を停止しようとしても、4秒経過してから停止します。

- 入力信号としてドライブ1の再生信号を選択している場合(ディスプレイにソース表示点灯がない場合)、ドライブ1のピッチを変えるとノイズが発生して録音信号に影響を与えます。

メモ

入力信号としてドライブ1の再生信号を選択している場合(ディスプレイにソース表示点灯がない場合)、サンプリング周波数コンバーターが自動的に働きます。

ファイナライズ

TOCを記録することをファイナライズといいます。

本機で録音したディスクは本機では再生できますが、最終的なTOCをディスクに記録するまで、一般のCDプレーヤーでは再生できません。

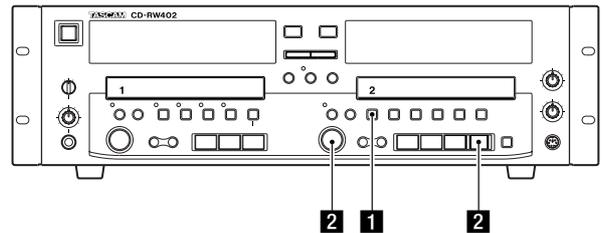
ファイナライズしたCDには新たに録音できません。

CD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。

メモ

ディスクがファイナライズ済みかどうかはディスプレイに[NO TOC]が表示されるかどうかで識別できます。

ファイナライズ済みの場合は表示されません。



○ ディスクを正しくセットします。

- 1 停止時にFINALIZEキーを押します。

ディスプレイに“FINALIZE OK?”が表示されます。

ファイナライズを中止したいときは、STOPキーを押します。

- 2 RECORDキーまたはMULTI DIALを押すとファイナライズが始まります。

ディスプレイに“TOC X:XX”を表示し[REC]が点滅を始めます。

- ファイナライズ中は操作キーを受け付けません。

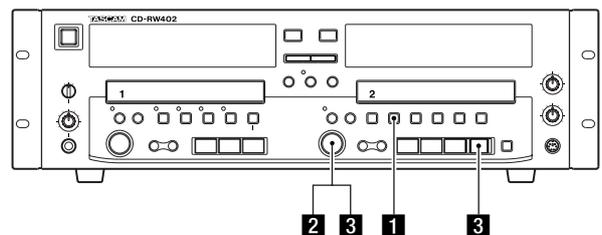
ご注意

ファイナライズ中に電源を切らないでください。

録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

アンファイナライズ

アンファイナライズはCD-RWディスクに対してのみ可能です。



○ ファイナライズ済みのディスクを正しくセットします。

- 1 停止時にERASEキーを押します。

- 2 MULTI DIALを回して、ディスプレイに“UNFINALIZE OK?”を表示します。

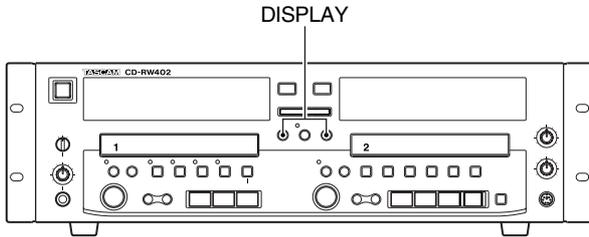
中止したいときは、STOPキーを押します。

- PLAYキーあるいはSTOPキーを押しても中止できます(その場合、再生あるいは一時停止になります)。

- 3 RECORDキーまたはMULTI DIALを押すとアンファイナライズが始まります。ディスプレイに“ERASE X:XX”を表示し[NO TOC]が点滅を始めます。

表示モード

録音および録音一時停止時には以下の表示モードがあります。
DISPLAY キーを押して時間表示モードを切り換えます。選択中のモードはディスプレイに表示されます。



【表示なし】

現在のトラックの録音済み時間を表示します。

【TOTAL】

ディスクの頭から現在位置までの時間を表示します。

【TOTAL REMAIN】

ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

【TITLE】

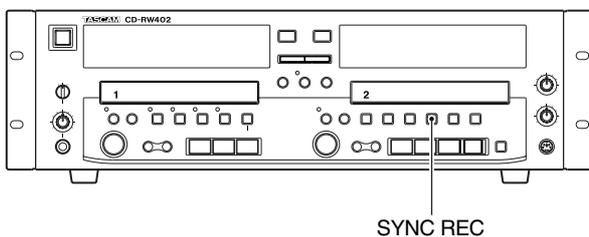
タイトルが登録されているディスクの場合、タイトルを表示します。

【ARTIST】

アーティスト名が登録されているディスクの場合、アーティスト名を表示します。

シンク録音

シンク録音とは、ソースの始まりを検出して自動的に録音が始まり、終わりを検出して自動的に録音が終わる録音です。
ソースの始まりや終わりの検出の基準になるサウンドレベルは、メニューを使って設定することができます。



サウンドレベルの設定

サウンドレベルの設定に従って、シンク録音や後述のオートトラック機能が動作します。設定値以下の信号は無音と見なされます。
サウンドレベルは、デジタル入力とアナログ入力で独立して設定することができます。

メニューグループ REC MENU 2 の中のメニュー項目 S_LEVEL (D) でデジタル入力のサウンドレベルを、またメニュー項目 S_LEVEL (A) でアナログ入力のサウンドレベルを、以下の中から選択します。

“MIN_L” (デジタルのみ)、“-72dB”、“-66dB”、“-60dB”、“-54dB”、“-48dB”、“-42dB”、“-36dB”、“-30dB”、“-24dB”

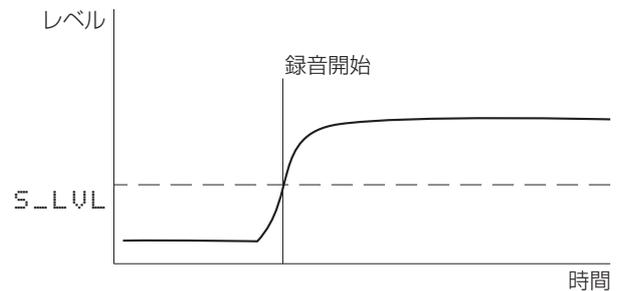
* “MIN_L” : 少しでも信号が記録されていれば信号として認識

シンク録音を行なう

「基本的な録音」(27 ページ) の手順 5 で PLAY キーを押す代わりに、SYNC REC キーを押すとシンク録音の待機状態になります。このとき、[SYNC] が点灯し、ディスプレイに “SYNC ON” * を表示します。

この状態から以下の信号を検出すると、自動的に録音が始まります。

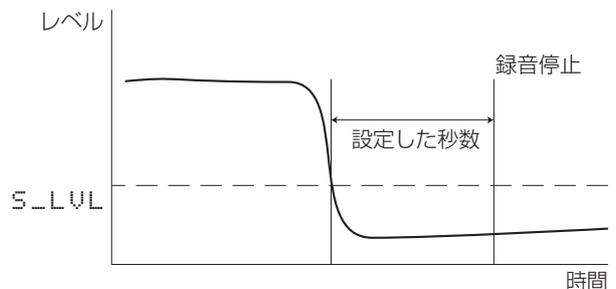
- (アナログ、デジタルに関係なく) 無音状態が 1 秒以上続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき
- CD、DAT、MD からのデジタル入力の場合、トラック区切り信号を検出して自動的に録音が始まります。



無音とは・・・

この取扱説明書では、サウンドレベル以下の音を無音と呼びます。そして、以下の信号を検出すると自動的に録音が終わります。

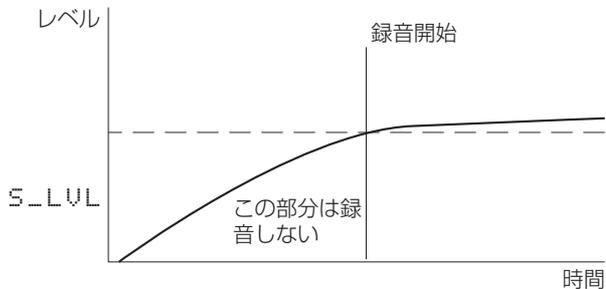
- SYNC END TM で設定した時間以上無音状態が続いたとき



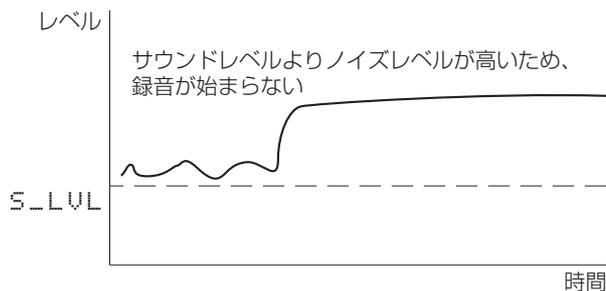
第5章 録音

- SYNC REC キーを押すと“SYNC OFF”を表示してシンク録音がオフになります。録音中にオン/オフを切り換えることもできます。

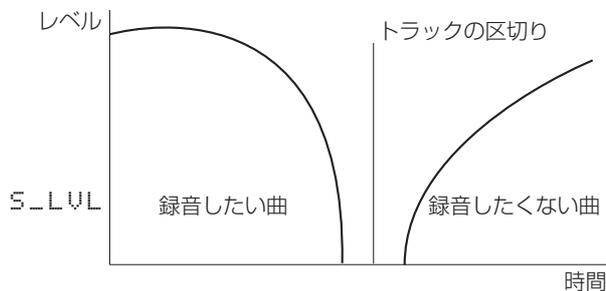
サウンドレベルを高めに設定すると、小さい音から始まる曲の始めの部分が欠けてしまうことがあります。



反対に、サウンドレベルを低めに設定すると、アナログソースなどのノイズレベルがサウンドレベルより高くなってしまいます。この場合はシンク録音が働きません（録音が始まりません）。



応用例：



通常のシンク録音では曲が終わった後にSYNC END TMで設定した秒数の無音録音部分ができますが、「録音トラック数の指定」(32 ページ)と組み合わせて使うと、録音したい曲が終わると同時に録音を終了することができます。

なお、シンク録音に関して以下の細かい設定ができます。

シンクエンドタイムの設定 (SYNC END TIME)

シンク録音中、音の立下りからシンク録音一時停止になるまでの無音検出時間を設定することができます。

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目SYNC END TMで、5秒～60秒の範囲で1秒単位で設定できます。初期値は5秒です。

シンクトリムの設定 (SYNC TRIM)

シンク録音開始ポイントから設定した値だけずらして録音を始めることができます。

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目SYNC TRIMで、-125f～+125fまでを1f単位で設定できます。

オートトラック（自動トラック番号）

メニュー項目“AUTO TRACK”をオンに設定にすると、録音中、あらかじめ設定したサウンドレベルと無音検出時間に従って、自動的にトラック番号を付けてゆることができます。[→ 29 ページ「サウンドレベルの設定」] [→ 31 ページ「無音検出時間の設定」] OFFにすると自動的にトラック番号が繰り上がりません。この場合、マニュアルでトラック番号を繰り上げることができます。[→ 31 ページ「マニュアルでトラック番号を付ける」] 初期設定はONになっています。

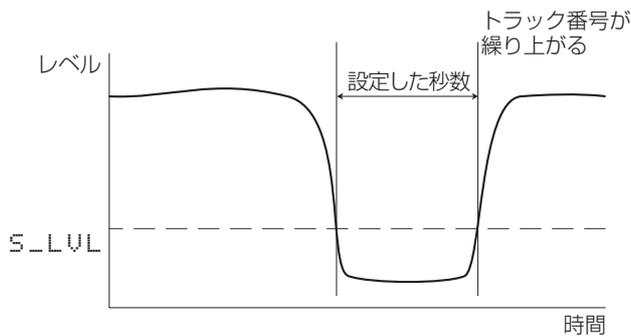
トラック番号が自動的に繰り上がるのは、以下の場合です。

CD、DAT、MDからのデジタル入力の場合

- トラックの区切りを検出したとき

アナログソースの場合または上記以外のデジタル入力の場合

- Inc Watch TMで設定した時間以上無音状態が続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき



無音検出時間の設定 (IncWatch TM)

オートトラックでトラックの繰り上げをする際の無音検出時間を変更できます。

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目IncWatch TMで、1秒～6秒の範囲で時間を設定します。初期値は3秒です。

オートトラックの設定 (AUTO TRACK)

メニューグループREC MENU 1のメニュー項目AUTO TRACKで、“A_TRACK>ON”を選択します。

“ON”にするとディスプレイの[A-TRACK]が点灯します。

- 録音中もON/OFF設定を切り替えることができます。
- レコードなどをダビングする場合は、オートトラックをオフにすることをお勧めします。

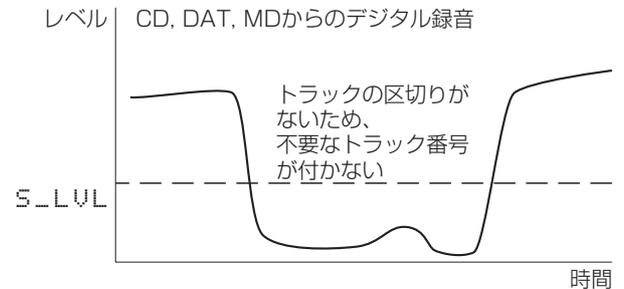
レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、曲間でオートトラック機能が働かないことがあります。

逆にクラシック音楽をアナログ入力で録音する場合などは、静かな部分を無音部分として検出して不要なトラック番号の繰り上げを行ってしまうことがあります。このような場合はマニュアルでトラック番号を付けることをお勧めします。

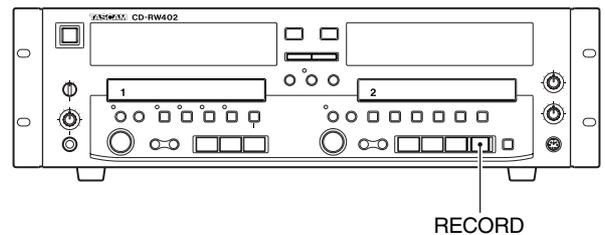
[→ 31 ページ「マニュアルでトラック番号を付ける」]

- CD、DAT、MDからのデジタル入力の場合は、トラックの区切りでトラック番号を付けるため、上記のような問題はありません。大きい音の部分や小さい音の部分が曲中にあっても、トラックの区切りを検出しないため、不要なトラック番号は付きません。

再生機によってはトラック区切り信号を出力しないものがあります。その場合はトラック番号が正しく付きません。



マニュアルでトラック番号を付ける



オートトラックメニューの設定に関わらず、録音中にRECORDキーを押すと、新しくトラック番号を付けることができます。

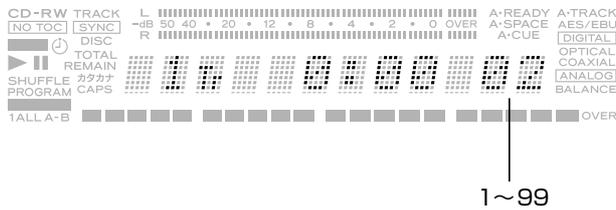
トラックインクリメントタイミングの調整 (INC TRIM)

オートトラックの際のトラックインクリメントのタイミングを前後にずらすことができます。

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目INC TRIMで、-125f～+125fの範囲までを1f単位で設定できます。

録音トラック数の指定

録音するトラックの数を予め指定しておくことができます。

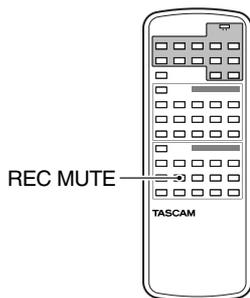


録音または録音一時停止時に、MULTI DIAL を回すと、ディスクレイに録音するトラックの数を表示します。

- 最大99トラックまで指定できます。

レックミュート

無音録音部分を簡単につくることができます。



録音中に本体またはリモコンのREC MUTE キーを押します。ディスプレイに“REC MUTE”を表示して無音録音が始まります。あらかじめ設定した時間を経過後に録音一時停止状態になります。

レックミュート時間の設定

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目REC MUTE TMで、1秒～10秒の範囲で設定します。初期値は4秒です。

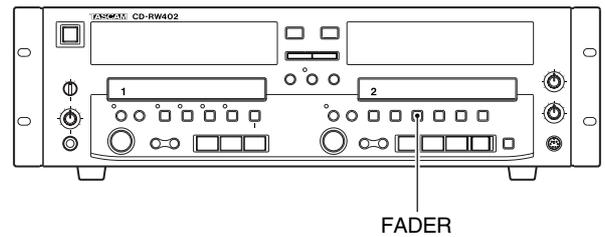
フェードイン/アウト

FADERキーを押すことにより、

無音～設定した入力レベルまでのフェードイン
現在のレベル～無音までフェードアウト

ができます。

フェードイン/アウトの時間はそれぞれ個別に設定することができます。



フェードタイムの設定

メニューグループREC MENU 1のメニュー項目FADE IN TMでフェードインタイムを、またメニュー項目FADE OUT TMでフェードアウトタイムを、それぞれ1秒～24秒の範囲で設定します。それぞれ初期値は3秒です。

フェードインを行なう

録音一時停止状態でFADERキーを押します。

フェードアウトを行なう

録音中にFADERキーを押します。

フェードアウトタイム経過後、録音待機状態になります。

コピーIDの設定

デジタルコピーに対するコピーIDを設定することができます。

メニューグループREC MENU 1のメニュー項目COPY IDで、以下の中から選択します。初期値は“1GEN”です。

- “FREE”：録音したディスクにコピー制限はありません
- “PROH”*：録音したディスクはデジタルコピーできません。
- “1GEN”**：録音したディスクから一世代のみデジタルコピーできます。

*PROH = PROHIBIT

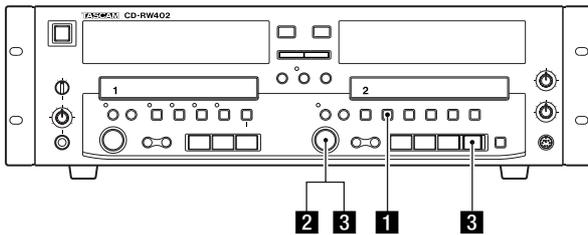
**GEN = GENERATION

- コピーIDはトラック単位で設定できます。例えば、トラック1と3はFREE、トラック2はPROHなどの設定ができます。

消去

CD-RWに録音したトラックは消去することができます。

消去できるのは、ディスク全体または指定したトラックから最後のトラックまでです。



○ ディスクを正しくセットします。

- 1 停止時にERASEキーを押します。
- 2 MULTI DIALを回して、ディスプレイに以下を表示します。
ディスク全体を消去する場合は：
→ “ERASE DISC ?”
指定したトラックから最後のトラックまでを消去する場合は：
→ “ERASE XX - XX ?”
中止したいときは、STOPキーを押します。
- 3 RECORDキーまたはMULTI DIALを押すと、ディスプレイに“ERASE X:XX”を表示して消去が始まります。

- CD-Rへの録音は消去できません。
- 消去中は操作キーを受け付けません。

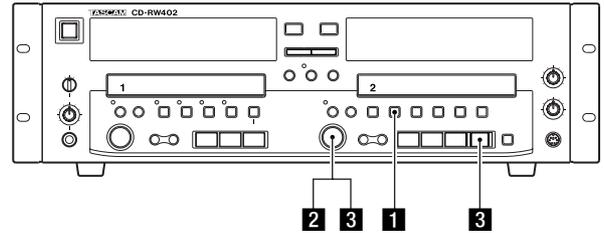
ご注意

消去中に電源を切らないでください。

録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

ディスクリフレッシュ

ファイナライズ中に停電があったディスクやコンピュータで使用したディスクは本機では認識できないことがあります。このような場合はディスクをリフレッシュします。



○ ディスクを正しくセットします。

- 1 停止時にERASEキーを押します。
- 2 MULTI DIALを回して、ディスプレイに“DISC REFRESH”を表示させます。
- 3 MULTI DIALまたはRECORDキーを押すと、ディスプレイに“ERASE X:XX”を表示してディスクリフレッシュが始まります。

インデックス機能

本機はCDのインデックス書き込みに関する機能をサポートしています。

ただしドライブ1、2ともに、インデックスサーチ機能はありません。

インデックスインクリメントモード

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目INDEX INCを“ON”に設定すると、通常はトラックインクリメントを行なうための外部信号（CDからのS/PDIF SUB-Qや音声レベルなど）を受信したときに、トラックではなくインデックスをインクリメントします。またディスプレイのトラックナンバーの右側にインデックスナンバーが表示されます。初期設定は“OFF”です。

なお、このモードの設定に関わらず、録音中にCALLキーを押すことにより、マニュアルでインデックスのインクリメントができます。

ご注意

- 録音を停止または一時停止するとトラックがインクリメントされます。1つのトラックに収録したい素材は連続して再生できるように、あらかじめ編集しておいてください。

また、デジタル入力では、ソースのコントロールコード（エンファシスビットなど）が変化すると、トラックがインクリメントされます。

インデックス00の長さ設定

メニューグループREC MENU 2のメニュー項目INDEX 00 TIMEで、録音を始める際のINDEX 00部分の長さを0s～4sの範囲（1s単位）で設定できます。初期値は0sです。

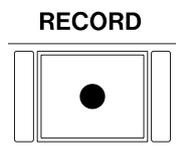
エクステンドチェック機能

エクステンドチェック機能とは、CD-R/CD-RWのディスクの記録可能エリアの限界を測定する機能です。

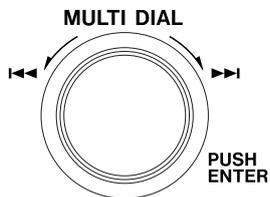
エクステンドチェックを行なうことにより、記録可能時間が増えることがあります。

エクステンドチェックを行なう

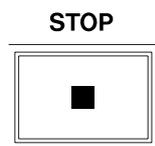
- 1 記録可能なCD-R/CD-RWディスクをセットします。
- 2 停止中に、RECORDキーを2秒以上押します。



- 3 ディスプレイに“Extend Check”が表示されます。
- 4 エクステンドチェックを行なう時は、RECORDキーまたはMULTI DIALを押します。



行なわない時は、STOPキーを押します。



ご注意

- エクステンドチェック後に記録したディスクは、CDプレイヤー/レコーダーによっては再生できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- エクステンドチェック動作中は、“Extend Check”と表示され、右端に“*”が点滅します。
この間は、ドライブ2のキーを受け付けません。
中断するときはSTOPキーを押します。
- エクステンドチェックを行なっても、記録可能時間が増えない場合もあります。

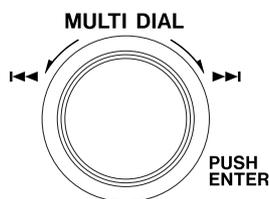
本機はディスクに記録されているCD TEXT情報（タイトル／アーティスト名）を表示できます。

またドライブ2ではタイトルやアーティスト名を入力してディスクに記録することができます。入力できる文字数は、タイトルとアーティストそれぞれ、各トラックにつき最大80文字です（ディスクのタイトル／アーティスト名も同様）。またディスク全体として、最大約2,900文字です。

編集したCD TEXTの内容はファイナライズしないとディスクに記録されません。ファイナライズをしないでディスクを取り出すと、編集した内容がキャンセルされます。

CD TEXT 情報の入力手順

- 1 メニューグループCD TEXTのメニュー項目TITLE EDIT?（タイトル入力時）またはARTIST EDIT?（アーティスト名入力時）を表示し、MULTI DIALを押します。



“T_EDIT>XXXX”（タイトル入力時）または“A_EDIT>XXXX”（アーティスト名入力時）が表示されます。

XXXX部は1Tr～99Tr（トラック番号）またはDISCです。

- 2 MULTI DIALを回して、タイトルまたはアーティスト名を入力するトラック番号またはDISCを選び、MULTI DIALを押します。

タイトルまたはアーティスト名の入力モードになります。

- 3 次項に示す文字入力方法に従ってタイトルまたはアーティスト名を入力します。

- 4 入力が終わったらFINALIZEキーを押します。

FINALIZE

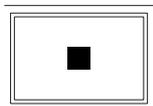


入力したCD TEXTが確定し、トラック番号選択に戻ります。

- 5 上記の手順2以降の操作を繰り返して、必要なタイトルまたはアーティスト名をすべて入力します。

- 6 すべての入力が済んだらSTOPキーを押します。

STOP



CD TEXT入力を中断するには

MENUキーを押すと、今まで入力したCD TEXTがキャンセルされ、トラック番号選択に戻ります。

MENU

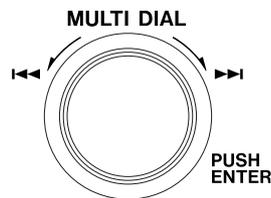


本体からの文字入力方法

以下の要領で本体から文字を入力することができます。

文字の選択

MULTI DIALを回して文字を選択し、MULTI DIALを押して確定します。確定するとカーソルが右に移動します。



文字の種類

DISPLAYキーを押すと、アルファベットの大文字と小文字を切り換えることができます。

アルファベット大文字選択時は、[CAPS]が点灯します。

DISPLAY



入力できる文字

- [CAPS] 消灯時

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789.;<=>?@!"#\$%&"()*+,-./[¥]^_`{|}~`（スペース）

- [CAPS] 点灯時

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ0123456789.;<=>?@!"#\$%&"()*+,-./[¥]^_`{|}~`（スペース）

カーソルの移動

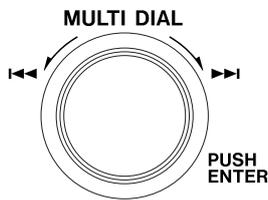
SEARCHキーを使います。

◀◀キーで1文字左へ、▶▶キーで1文字右へ移動します。



文字の挿入

入力済みの文字列に文字を挿入するには、挿入したい位置にカーソルを合わせ、MULTI DIALを2秒以上押します。スペースが挿入されますので、希望の文字を選択します。



文字の削除

入力済みの文字列の文字を削除するには、削除したい文字にカーソルを合わせ、ERASEキーを押します。文字が削除され以降の文字が左に1文字ずつ移動します。

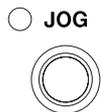


CD TEXTのコピー&ペースト

文字エリア全体をコピー&ペーストすることができます。

JOGキーを押すと、現在表示中のテキストがコピーされます。

CALLキーを押すと、コピーされたテキストデータがペーストされます。

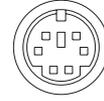


- ペーストすると文字エリア全体を上書きしますので、編集途中の内容は全て置き換わります。

キーボードを使った文字入力方法

キーボードをKEYBOARD端子に接続することにより、効率良くCD TEXTの入力を行なうことができます。

KEYBOARD



ご注意

出荷時の設定ではUSキーボード用に設定されています。日本語キーボードを使う場合はメニューを使って設定を"JP"に変更してください。[→ 44 ページ「キーボードタイプの設定」]

カーソルの移動

←キーで1文字左へ、→キーで1文字右へ移動します。

またHomeキーを押すと文字列の先頭へ、Endキーを押すと文字列の最後に移動します。

文字の挿入

入力済みの文字列に文字を挿入するには、挿入したい位置にカーソルを合わせ、Insertキーを押します。スペースが挿入されますので、希望の文字を選択します。

文字の削除

入力済みの文字列の文字を削除するには、削除したい文字の右隣りにカーソルを合わせてBack Spaceキーを押すか、あるいは削除したい文字にカーソルを合わせてDeleteキーを押します。文字が削除され以降の文字が左に1文字ずつ移動します。

その他の操作

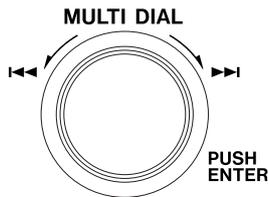
- Enterキーを押すと、入力したCD TEXTが確定し、トラック番号選択に戻ります（本体のFINALIZEキーを押すのと同じです）。
- Escキーを押すと、今まで入力したCD TEXTがキャンセルされ、トラック番号選択に戻ります（本体のMENUキーを押すのと同じです）。
- Print Screenキーを押すと、現在表示中のテキストがコピーされます。
- Scroll Lockキーを押すと、コピーされたテキストデータがペーストされます。

CD TEXTデータの一時保存と呼び出し

CD TEXTを一時的に本機のバッファメモリーに保存し、後から呼び出すことができます。

CD TEXTデータの一時保存

- 1 メニューグループCD TEXTのメニュー項目Text STORE?を表示します。
- 2 MULTI DIAL を押すと“STORE OK?”が表示されます。



- 3 再度 MULTI DIAL を押します。
これでCD TEXTがバッファメモリーに保存されます。

なおCD TEXTを編集した後、ファイナライズや上記の一時保存をせずにOPEN/CLOSEキーを押すと、ディスプレイに“STORE TEXT?”が表示されます。“STORE TEXT?”表示中にMULTI DIALを押すと、本機はCD TEXTをバッファメモリーに保存してからディスクを排出します。



“STORE TEXT?”表示中にもう一度OPEN/CLOSEキーを押すと、本機は編集したCD TEXTをクリアし、ディスクを排出します。
また電源をオフにするとクリアされます。

CD TEXTデータの呼び出し

一時保存したCD TEXTを呼び出すことができます。

- 1 メニューグループCD TEXTのメニュー項目TextRESTORE?を表示します。
- 2 MULTI DIAL を押すと“RESTORE OK?”が表示されます。
- 3 再度 MULTI DIAL を押します。
これでCD TEXTがバッファメモリーから呼び出されます。

第7章 ディスクコピー機能

ドライブ1のディスクからドライブ2のディスクへコピーする場合、通常の録音と異なる手順で行ないます。コピーモードには以下の種類があります。

- **DISC コピー：**
ディスク全体をコピーします。
 - **PGM コピー：**
あらかじめプログラムした曲順でコピーします。
 - **A-B コピー：**
設定したA-B間のみをコピーします。
 - **A-B EXCL コピー：**
設定したA-B間以外をコピーします。
 - **DAO (Disc At Once) コピー：**
CD-ROMやCD EXTRAのディスクをコピーします。
- 1倍速(×1)以外にも、2倍速(×2)、4倍速(×4)でコピーすることができます。
 - コピー後、自動的にファイナライズすることもできます。

コピーに関する注意事項

- コピー中は電源を切らないで下さい。
- DISCコピーとPGMコピーでは、Disc At Once (DAO) コピーが可能です。
DAOでは最内周(TOC)から記録を始めるため、ディスクに記録される信号が途切れません。
- ISO9660フォーマットのディスクはDAOしかできません。
- DAOは、ドライブ2に挿入される記録ディスクは必ずブランクディスク(Otr)でなければなりません。
- コピー中はSTOPキー以外は受け付けません。コピー中にSTOPキーを押すとコピーが中断されます。
ただしDAO(Disc At Once)コピーの場合は、STOPキーを押してもコピーを中断できません。
- ディスクによって4倍速に対応していないものがあります。その場合のコピースピードは1倍速または2倍速を選択してください。
- ピッチコントロール機能は使用できません。ピッチコントロールを使用して録音する場合は、通常の録音を行なってください。
- DAO(Disc At Once)コピーでは、ISRC(International Standard Recording Code)データもコピーできます。
コピーするには、メニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目ISRC COPYをON(ISRC Cp > ON)に設定します。初期設定はOFFです。
- DAO(Disc At Once)コピーでは、コピーしたトラックのINDEXは、00または01のみになります。INDEX02以上が記録されたディスクをコピーした場合、すべてINDEX 01のままになりますのでご注意ください。
- DAO(Disc At Once)コピーを除き、コピー中にCD TEXTの編集が可能です。
- CD-TEXTのコピーは、DAOの場合もDISCコピーの場合も可能です。

ただし自動ファイナライズ機能をオンに設定した場合、コピーが終了すると自動的にファイナライズ動作に入りますので、この時点で編集途中の(FINALIZEキーを押して確定していない)CD TEXTは破棄されます。ご注意ください。

- コピー中はデジタルボリュームが無効です。

DISCコピーとDAOの違い

ひとことで言うならば、オーディオディスクのコピーには主にDISCコピー、データディスクのコピーには主にDAOをお使いください。

DISCコピーは、マスターディスクのオーディオトラックをコピーします。この際にファイナライズするかしないかを選択できます。

FINALIZE = YESを選択をした場合は、コピー終了後自動的にファイナライズを行います。

FINALIZE = NOを選択をした場合は、コピーしたディスクにさらに追記ができます。

すなわち、複数のディスクを一枚のディスクにまとめてコピーすることもできます。

DISCコピーでは、通常のオーディオCD(CD-DA)だけをコピーできます。

DAOは、オーディオデータだけでなくデータ部分までを含めてディスク全体をコピーします。メニューのISRC COPYをONにしておけば、ISRC(International Standard Recording Code)もコピーできます。

LEAD IN(TOCエリア) → プログラムエリア(オーディオデータ) → LEAD OUTの順に、一筆書きで丸ごとコピーしますので、つなぎ目がないディスクを創ることができます。ただし、コピー後の追記やコピー中のCD-TEXT入力はできません。

DAOでは、通常のオーディオCD(CD-DA)だけでなく、それ以外のディスク(CD-ROMやCD EXTRA)もコピーできます。

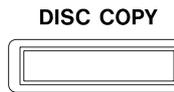
DISC コピー

このモードでオーディオCD全体をコピーできます(CD-ROMディスクはDAOでコピーします)。

自動的にファイナライズを行なうこともできます。

- 1 ドライブ1にコピー元のディスクを、ドライブ2に録音可能なディスクをセットします。
- 2 ドライブ1の再生モードをノーマル再生モードにします。
[→ 19ページ「3つの再生モード」]

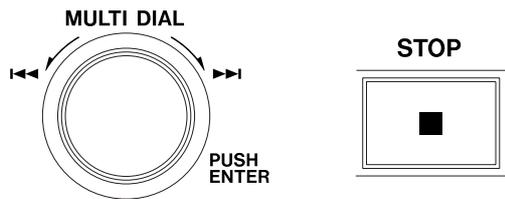
- 3 DISC COPY キーを押します。



ドライブ1のディスプレイに“DISC COPY”、ドライブ2のディスプレイに“COPY> DISC”が表示されます。

- 4 ドライブ2のMULTI DIALを押します。

キャンセルする場合はSTOPキーを押します。



ドライブ2のディスプレイに“Copy Speed>XX”が表示されます。

- 5 MULTI DIALを回してコピー速度(×1、×2、×4)を選び、MULTI DIALを押します。

ドライブ2のディスプレイに“FINALIZE>XXX”が表示されます。

- 6 コピー後に自動的にファイナライズする場合は“YES”、しない場合は“NO”をMULTI DIALを回して選択します。

(ドライブ2にセットされているディスクがブランクディスクの場合、“DAO”(Disc At Once)という選択肢もあります。DAOを選択する場合には次項「DAOコピー」で説明します。)

選択後、MULTI DIALを押します。

ドライブ2のディスプレイに“COPY START?”が表示されます。

- 7 MULTI DIALを押します。

(キャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

ドライブ1のディスプレイには“Wait...”、ドライブ2のディスプレイには“Copy Standby”が表示され、まもなくDISCコピーが始まります。

コピーが始まるとドライブ1のディスプレイにはコピー中のトラック番号が表示され(例: 1TrCOPY)、ドライブ2のディスプレイにはトラック番号とトラック経過時間が表示されます。

(例: 1Tr 2:23)。

メモ

- CD EXTRAディスクなどの場合、DISCコピーでは音楽記録部分しかコピーされません。データ部分までコピーする場合はDAOコピーを行なってください。

- 以下のメッセージが表示された場合、コピーできません。

- “DRV2 DiscErr” : ドライブ2に記録できないディスクが挿入されています。
- “DRV1 NO TRK!” : ドライブ1に何も記録されていないディスクが挿入されています。
- “PLAY MODE!” : ドライブ1の再生モードがシャッフルモードになっています。
- “NOT ENOUGH” : ドライブ1のデータ量に比べて、ドライブ2の記録可能スペースが足りません。

- ドライブ1側の再生モードがPGMモードの場合、上記手順2でDISC COPYキーを押したときに“PGM COPY”が表示されます。[→ 39ページ「PGMコピー」]

DISCコピーはできません。

PGMコピー

オーディオCDの場合、PGMコピーによってプログラムした曲順でコピーすることができます。

- ドライブ1にコピー元のディスクを、ドライブ2に録音可能なディスクをセットします。
- ドライブ1の再生モードをプログラム再生モードにして、コピーしたい順番に曲をプログラムします。[→ 19ページ「3つの再生モード」]
- ドライブ1、ドライブ2とも停止状態であることを確認して、DISC COPYキーを押します。

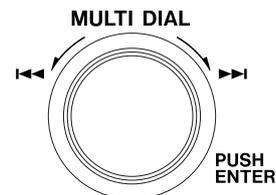
DISC COPY



ドライブ1のディスプレイに“PGM COPY”、ドライブ2のディスプレイに“COPY> PGM”が表示されます。

- 4 ドライブ2のMULTI DIALを押します。

キャンセルする場合はSTOPキーを押します。



ドライブ2のディスプレイに“Copy Speed>XX”が表示されます。

- 5 ドライブ2のMULTI DIALを回してコピー速度(×1、×2、×4)を選び、MULTI DIALを押します。
- ドライブ2のディスプレイに“FINALIZE>XXX”が表示されます。

第7章 ディスクコピー機能

6 コピー後に自動的にファイナライズする場合は“YES”、しない場合は“NO”をMULTI DIALを回して選択します。ドライブ2にセットされているディスクがブランクディスクの場合、“DAO” (Disc At Once) という選択肢もあります。

[→ 40ページ「DAOコピー」]

選択後、MULTI DIALを押します。

ドライブ2のディスプレイに“COPY START ?”が表示されます。

7 MULTI DIALを押します。

(キャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

コピーが始まるとドライブ1のディスプレイにはコピー中のトラック番号とプログラムステップが表示され(例: 4TrCOPY 02p)、ドライブ2のディスプレイにはトラック番号とトラック経過時間が表示されます(例: 1Tr 2:23)。

- 以下のメッセージが出た場合、コピーできません。
 - “DRV2 DiscErr” : ドライブ2に記録できないディスクが挿入されています。
 - “PGM EMPTY!” : ドライブ1に1曲もプログラムされていません。
 - “NOT ENOUGH” : ドライブ1のデータ量に比べて、ドライブ2の記録可能スペースが足りません。
- ドライブ1側の再生モードがPGMモードのとき、上記手順3で必ずPGMコピーが選択されます。

ご注意

- ドライブ1側でプログラムした曲番が連続ではない場合(例 1 → 3.6 → 2 など)、連続ではなくなった曲の頭に自動的に2秒分INDEX 00が記録されます。
また連続した曲でも、TOC EDITを行なっている場合には、自動的にINDEX00を記録することがあります。

DAO (Disc At Once) コピー

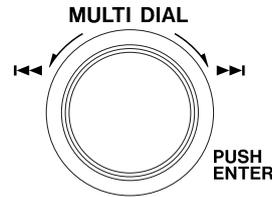
DISCコピーやPGMコピー時、ドライブ2にブランクディスクがセットしてある場合、DAO (Disc At Once) コピーが可能です。

1 上記DISCコピーの操作手順1～5を行ないます。

CD-ROMディスク以外のコピーの場合は下記の手順2をスキップします。

2 CD-ROMディスクをコピーする場合は、この時点(コピー速度を選び、MULTI DIALを押した時点)で“COMPARE>XXX”が表示されます。

コピー終了後にコピー元とコピーされたディスクの内容を比較する場合は“YES”、しない場合は“NO”をMULTI DIALを回して選択し、MULTI DIALを押します。



ドライブ2のディスプレイに“FINALIZE>XXX”が表示されます。

3 “FINALIZE>XXX”表示中、MULTI DIALを回して“DAO”を選択します。(CD-ROMをDAOコピーする場合は表示されません。)

4 MULTI DIALを押します。

(キャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

DAOコピーが始まります。

リードインデータを読み込み中、ドライブ2のディスプレイに“Lead In”が点滅表示されます。

コピー中、ドライブ1のディスプレイに“Now Copy 1->2”が表示されます。

データのコピーが終わると、リードアウトデータが記録されます。その間、ドライブ2のディスプレイに“Lead Out”が点滅表示されます。

CD-ROMディスクのコピーで、上記手順2で“YES”を選択した場合、リードアウトデータを記録した後で比較チェックが実行されます。チェック中、ドライブ1のディスプレイには“COMPARE 1:2”、ドライブ2のディスプレイには“COMPARE”が表示されます。

- ドライブ2のディスクがブランクでない場合は、DAOを選択することはできません。
- CD-ROM (ISO9660フォーマット) ディスクはDAOコピー以外の方法ではコピーができません。
- DAOコピーでは最初にTOCを書き込むため、途中で中断できません。DAOコピー中は電源を切らないで下さい。
- 通常CD-ROMディスクコピー後の比較チェック動作には、数分～数十分かかります(データの量によって異なります)。

ディスクコンペア (比較) 機能について

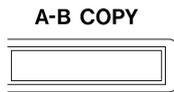
上記の操作手順2で“Yes”を選択することによって、コピー終了後のCD-ROMディスクの比較チェックを行なうことができますが、コピー操作とは無関係に、いつでもCD-ROMのディスク比較を行なうことができます。

A-B コピー

オーディオCDの指定した区間だけを1つのトラックとしてコピーすることができます。

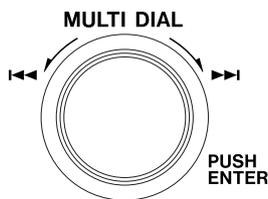
なおコピーする部分の長さは4秒以上なければなりません。

- 1 ドライブ1にコピー元のディスクを、ドライブ2に録音可能なディスクをセットします。
- 2 ドライブ1の再生モードをノーマル再生モードにします。
[→ 19ページ「3つの再生モード」]
- 3 コピーしたい区間の始まりをAポイント、終わりをBポイントとしてメモリーします。[→ 22ページ「メモリーポイント機能」]
 - Aポイントのみをメモリーすると、Aポイントからそのトラックの終わりまでがコピー区間になります。
 - Bポイントのみをメモリーすると、トラックの頭からBポイントまでがコピー区間になります。
- 4 ドライブ1、ドライブ2とも停止状態であることを確認して、A-B COPYキーを押します。



ドライブ1のディスプレイに“A-B COPY”、ドライブ2のディスプレイに“COPY> A-B”が表示されます。

- 5 ドライブ2のMULTI DIALを押します。



ドライブ2のディスプレイに“Copy Speed>xX”が表示されます。

- 6 ドライブ2のMULTI DIALを回してコピー速度(×1、×2、×4)を選び、MULTI DIALを押します。
ドライブ2のディスプレイに“COPY START ?”が表示されます。
- 7 ドライブ2のMULTI DIALを押します。
(キャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

他のコピーモードと同じように、コピーが実行されます。

コピーが完了すると通常のディスプレイに戻ります。

- 以下のメッセージが表示された場合、コピーできません。
 - “DRV2 DiscErr”：ドライブ2に記録できないディスクが挿入されています。
 - “PLAY MODE!”：ドライブ1の再生モードがノーマルモード以外になっています。
 - “A-B ERROR!”：Bポイントの方がAポイントよりも手前にあります。
 - “NOT ENOUGH”：コピーする部分の長さが4秒未満です。
- エンファシスのオン/オフ設定が異なるトラックをまたいだA-Bコピーはできません。

A-B EXCL コピー

オーディオCDのあるトラックをコピーする場合、トラック内の一部(A-B間)をカットしてコピーすることができます。

カットした繋ぎ目の部分をあらかじめ確認することが可能です。

カットする区間の始点Aポイントと終点Bポイントは同一トラック上になければなりません。

なおコピーする部分の長さは4秒以上なければなりません。

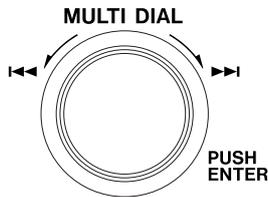
- 1 ドライブ1にコピー元のディスクを、ドライブ2に録音可能なディスクをセットします。
- 2 ドライブ1の再生モードをノーマル再生モードにします。
[→ 19ページ「3つの再生モード」]
- 3 カットしたい区間の始まりをAポイント、終わりをBポイントとしてメモリーします。
[→ 22ページ「メモリーポイント機能」]
 - Aポイントのみをメモリーすると、Aポイントからそのトラックの終わりまでがカットする区間になります(つまりトラックの頭からAポイントまでがコピー区間になります)。
 - Bポイントのみをメモリーすると、トラックの頭からBポイントまでがカットする区間になります(つまりBポイントからそのトラックの終わりまでがコピー区間になります)。
- 4 ドライブ1、ドライブ2とも停止状態であることを確認して、A-B COPYキーを押します。



ドライブ1のディスプレイに“A-B COPY”、ドライブ2のディスプレイに“COPY> A-B”が表示されます。

第7章 ディスクコピー機能

- 5 ドライブ2のMULTI DIALを回して、ドライブ1のディスプレイに“A-B EXcICOPY”、ドライブ2のディスプレイに“COPY> AB EXCL”を表示し、MULTI DIALを押します。



ドライブ2のディスプレイに“ExclRhsI>”が表示され、A-Bカット部の繋ぎ目をチェックするかどうかを選択することができます。

- 6 繋ぎ目を確認するときは“YES”、確認しないときは“NO”を、MULTI DIALを回して選択し、MULTI DIALを押します。

“YES”を選択すると、繋ぎ目前後が再生されます。

ドライブ2のディスプレイに“RehearsalOK?”が表示されます。

“NO”を選択するとドライブ2のディスプレイに“Copy Speed>xX”が表示されます。この場合、下記の手順7をスキップしてください。

- 7 コピーを実行する場合はMULTI DIALを押します。

(コピーをキャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

ドライブ2のディスプレイに“Copy Speed>xX”が表示されます。

- 8 ドライブ2のMULTI DIALを回してコピー速度(×1、×2、×4)を選び、MULTI DIALを押します。

ドライブ2のディスプレイに“COPY START?”が表示されます。

- 9 ドライブ2のMULTI DIALを押します。

(キャンセルする場合はSTOPキーを押します。)

他のコピーモードと同じように、コピーが実行されます。

コピーが完了すると通常のディスプレイに戻ります。

- 以下のメッセージが表示された場合、コピーできません。
 - “DRV2 DiscErr”：ドライブ2に記録できないディスクが挿入されています。
 - “PLAY MODE!”：ドライブ1の再生モードがノーマルモード以外になっています。
 - “A-B ERROR!”：ドライブ1にA、Bポイントが設定されていないか、ポイントBの方がAよりも手前にあります。
 - “NOT ENOUGH”：コピーする部分の長さが4秒未満です。

第8章 その他のシステム設定

今までにそれぞれのセクションで述べてきた設定の他に、ディスプレイやタイマーなどに関する設定がいくつかあります。

ディマー設定 (ドライブ1/2)

それぞれのドライブ用のディスプレイの明るさを8段階の中から選ぶことができます。

メニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目DIMMERで、DIMMER>x?の値を1~8の中から選択します。

メーターピークホールド設定 (ドライブ1/2)

それぞれのメーターのピークホールド値を設定することができます。

- ドライブ1用のメーターは常に再生信号レベルを表示しますが、ドライブ2用のメーターは再生時は再生信号レベル、録音時は録音入力レベルを表示します。

メニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目PEAK HOLDで、値を0.0~2.5(秒)の範囲(0.1秒ステップ)またはHOLDの中から選択できます。

HOLDを選択した場合、本体のMULTI DIALを押すまでピーク値をホールドします。

タイマー再生 (ドライブ1のみ)

タイマー再生をオンに設定すると、本機の電源投入時に自動的にドライブ1の再生を始めます。

交互連続再生モードをオン(CONT PLAYインジケータ点灯)にしておくと、電源投入だけで自動的にドライブ1とドライブ2間の交互連続再生が可能です。

- ドライブ2から再生を始めることはできません。

ドライブ1のメニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目TIMER PLAYで、ONまたはOFFを選択します。

インデックス表示 (ドライブ1のみ)

ドライブ1の再生中にインデックスを表示するかどうかを設定します。

ドライブ1のメニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目INDEX DISPで、ONまたはOFFを選択します。

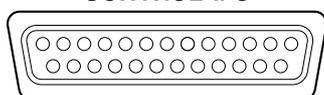
CONTROL I/O

リアパネルのCONTROL I/O端子を通じて、外部から本機をパラレルコントロールすることができます。本機からはタリー情報を出力することができます。

Pin	Signal name	IN/OUT
1	PLAY コマンド (ドライブ2)	IN
2	STOP コマンド (ドライブ2)	IN
3	CALL コマンド (ドライブ2)	IN
4	FADER コマンド (ドライブ2)	IN
5	未使用	-
6	+5V	-
7	未使用	-
8	+5V	-
9	未使用	-
10	PLAY コマンド (ドライブ1)	IN
11	STOP コマンド (ドライブ1)	IN
12	CALL コマンド (ドライブ1)	IN
13	FADER コマンド (ドライブ1)	IN
14	PLAY タリー (ドライブ2)	OUT
15	READY タリー (ドライブ2)	OUT
16	EOM タリー (ドライブ2)	OUT
17	GND	-
18	未使用	-
19	未使用	-
20	未使用	-
21	未使用	-
22	PLAY タリー (ドライブ1)	OUT
23	READY タリー (ドライブ1)	OUT
24	EOM タリー (ドライブ1)	OUT
25	GND	-

- ・ 入力：ローアクティブ
- ・ オープンコレクタ出力：最大電圧 15V、最大電流 50mA
- ・ +5V：Pin 6、Pin 8 合計で 100mA

CONTROL I/O



PC キーボード

フロントパネルのKEYBOARD端子にPS/2キーボードを接続することにより、効率の良いCD TEXT情報入力ができるほかに、簡単なリモコンとして使うこともできます。

キーボードを使ったCD TEXT入力については「外部キーボードを使った文字入力方法」(36ページ)をご覧ください。

以下の表はリモコン機能のキー割り当てを示しています。

【ドライブ1コントロール】

キー	コントロール
[F1]	STOP
[F2]	PLAY
[F3]	READY
[F5]	トラック後スキップ
[F6]	トラック前スキップ
[Shift] + [ESC]	MENUキー
[Shift] + [Enter]	MULTI DIAL 押し ^a
[Shift] + [Up]	MULTI DIAL 時計方向回転 ^a
[Shift] + [Down]	MULTI DIAL 反時計方向回転 ^a

a. メニューモード時

【ドライブ2コントロール】

キー	コントロール
[F7]	トラック後スキップ
[F8]	トラック前スキップ
[F9]	STOP
[F10]	PLAY
[F11]	READY
[Shift] + [F11]	タイトル編集
[Shift] + [F12]	アーティスト編集
[ESC]	MENUキー
[Enter]	MULTI DIAL 押し ^a
[Up]	MULTI DIAL 時計方向回転 ^a
[Down]	MULTI DIAL 反時計方向回転 ^a

a. メニューモード時

第9章 外部コントロール

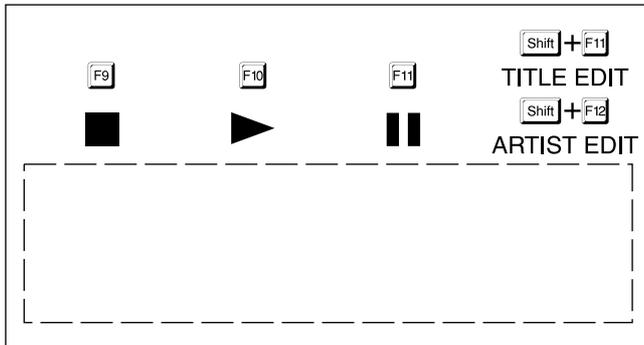
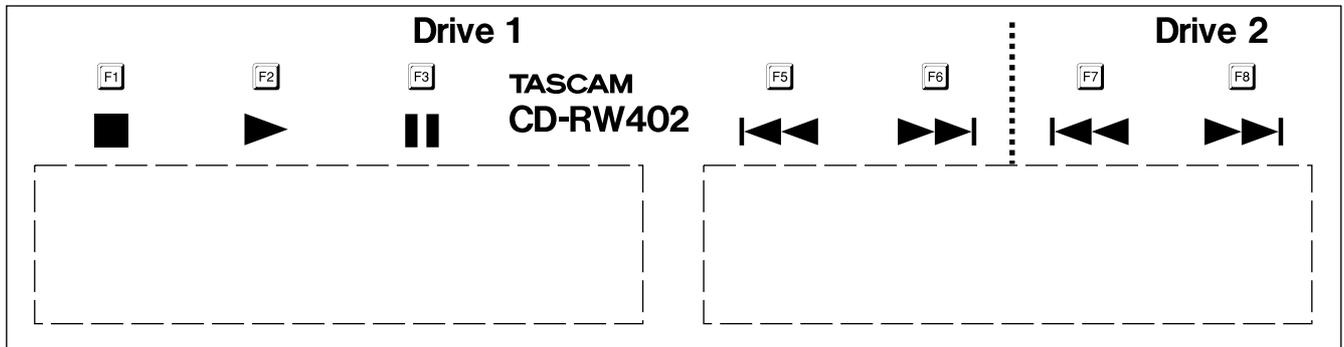
キーボードタイプの設定

キーボードのタイプを設定するメニューがあり、接続するキーボードに合わせて、USタイプまたは日本タイプを選択する必要があります。(出荷時はUSタイプに設定)

ドライブ2用のメニューグループSYSTEM MENUのメニュー項目KEYBOARDで、US (USタイプ) またはJP (日本タイプ) を選択します。

キーボードテンプレート

以下のテンプレートをキーボードに貼っておくと便利です。



メッセージ一覧表

動作時のメッセージ

本機の状態を表示します。

メッセージ	内 容
PMA WRITING	録音した内容をディスクに記録しています
COMPLETE	ファイナライズまたは消去などが完了しました
NOW OPC	最適な状態で録音するために、使用ディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています
OPC AREA CLR	OPCエリアをクリア中です
ExtendChk	エクステンドチェック中です
Now REPAIR	ディスク修復中です
TOC Reading	TOC情報を読み取り中です
COPY Standby	COPY準備中です
Now Copy 1 → 2	COPY中です（ドライブ1のみ表示）
Wait...	COPY準備／終了処理中です
NOW COMPARE	比較チェック中です
Check Stop!!	オーバークラッシュチェック中断処理中です

エラーメッセージ

操作を実行できないときやエラーが発生したときに表示されます。

メッセージ	内 容
DISC ERROR!	ディスクに何らかの問題があります
CANNOT REC!	録音できません
ERASE ERROR!	消去中にエラーが発生しました
DISC FULL!	トラック数または録音時間が限界に達したため録音を停止します
D-IN UNLOCK!	入力ソース選択をデジタルに設定しているのに、デジタル入力がありません
REC ERROR!	録音中にエラーが発生しました
SYSTEM ERR!	システムエラーです
DRIVE ERROR!	ドライブに問題があります
PGM FULL!	100曲以上プログラムしようとしています
NO OPC AREA!	OPCエリアに余裕がないため録音できません
CopyReadErr!	コピー時の読み取りに問題が発生しました
TEXT FULL!!	テキストエリアがいっぱいです
POINT ERROR!	TOC EDITできないポイントです
CantCompare!	比較チェック作業ができません（オーディオトラックが含まれたディスクのため）
COMPARE ERR!	比較チェックの結果、同一ではありません
NOT ENOUGH	(DISC コピー、PGM コピー時) コピーする時間がドライブ2の記録可能時間より長い場合、コピーできません。 (A-B コピー、A-B EXCL コピー時) コピー個所の時間が4秒未満です。
STORE TEXT?	CD TEXT をバッファメモリーに保存しますか？
DRV2 DiscErr	書き込み可能でないディスクがドライブ2に挿入されています
DRV1 NO TRK!	ブランクディスクがドライブ1に挿入されています
PLAY MODE!	ドライブ1がシャッフルモードのときにDiscコピーが選択されました ドライブ1が通常再生モード以外の時に、A-B/A-B EXCL コピーが選択されました
PGM EMPTY!	PGM コピー時に、ドライブ1側のディスクがプログラムされていません
A-B ERROR!	A-B コピーまたはA-B EXCL コピー選択時、Aポイントより手前にBポイントが設定されています

仕様

ドライブ1 性能仕様

ドライブタイプ:	CD再生機
再生可能ディスク:	CD/CD-R/CD-RW
量子化ビット数:	16ビットリニア
サンプリング周波数:	44.1kHz
再生周波数特性:	20~20kHz, ±0.8dB (再生時)
S/N 比:	95dB以上
ダイナミックレンジ:	95dB以上
歪率:	0.005%以下
チャンネルセパレーション:	90dB (1kHz) 以上
ワウフラッター:	測定限界以下 (0.001%以下)

ドライブ2 性能仕様

ドライブタイプ:	CD-R/CD-RW 録音/再生機
記録スピード:	×1、×2、×4
記録可能ディスク:	CD-R、CD-R-DA、CD-RW、 CD-RW-DA
再生可能ディスク:	CD/CD-R/CD-RW
量子化ビット数:	16ビットリニア
サンプリング周波数:	44.1kHz
再生周波数特性:	20~20kHz ±0.8dB (再生時) ±1.0dB (記録時)
S/N 比:	95dB以上 (再生時) 80dB以上 (記録時)
ダイナミックレンジ:	95dB以上 (再生時) 80dB以上 (記録時)
歪率:	0.005%以下 (再生時) 0.008%以下 (記録時)
チャンネルセパレーション:	90dB以上 (再生時 1kHz) 80dB以上 (記録時 1kHz)
ワウフラッター:	測定限界以下 (0.001%以下)

デジタル入出力仕様

デジタル入力 (ドライブ2のみ)

INPUT (COAXIAL):	RCA ピン IEC-60958 TYPE I, TYPE II 規格準拠 (自動検出)
INPUT (OPTICAL):	TOSLINK IEC-60958 TYPE I, TYPE II 規格準拠 (自動検出)

デジタル出力 (ドライブ1、2共通)

OUTPUT (COAXIAL):	RCA ピン IEC-60958 TYPE II (S/PDIF)
OUTPUT (OPTICAL):	TOSLINK IEC-60958 TYPE II (S/PDIF)

アナログ入出力仕様

アナログ入力 (ドライブ2のみ)

ANALOG (UNBALANCED) INPUT: RCA ピン	
基準入力レベル:	-10dBV (FS - 16dB)
最大入力レベル:	+6dBV
入力インピーダンス:	23kΩ

ANALOG (BALANCED) INPUT: XLR バランス (1番: グランド、2番: ホット、3番: コールド)	
基準入力レベル:	+4dBu (FS - 16dB)
最大入力レベル:	+20dBu
入力インピーダンス:	12kΩ

アナログ出力 (ドライブ1、2共通)

ANALOG (UNBALANCED) OUTPUT: RCA ピン	
基準出力レベル:	-10dBV (FS - 16dB)
最大出力レベル:	+6dBV
出力インピーダンス:	570Ω

ANALOG (BALANCED) OUTPUT: XLR バランス (1番: グランド、2番: ホット、3番: コールド)	
基準出力レベル:	+4dBu (FS - 16dB)
最大出力レベル:	+20dBu
出力インピーダンス:	75Ω

ヘッドホン出力仕様

6φステレオ
20mW + 20mW (32Ω負荷時)

リモート端子仕様

CONTROL I/O 端子:	Dsub 25pin
KEYBOARD 端子:	MINI DIN 6pin (PS/2 準拠)
REMOTE IN 端子:	RC-RW402 専用

書き込みフォーマット

CD - DA (CD-TEXT 対応)、
CD - ROM (ISO9660)
CD Extra*

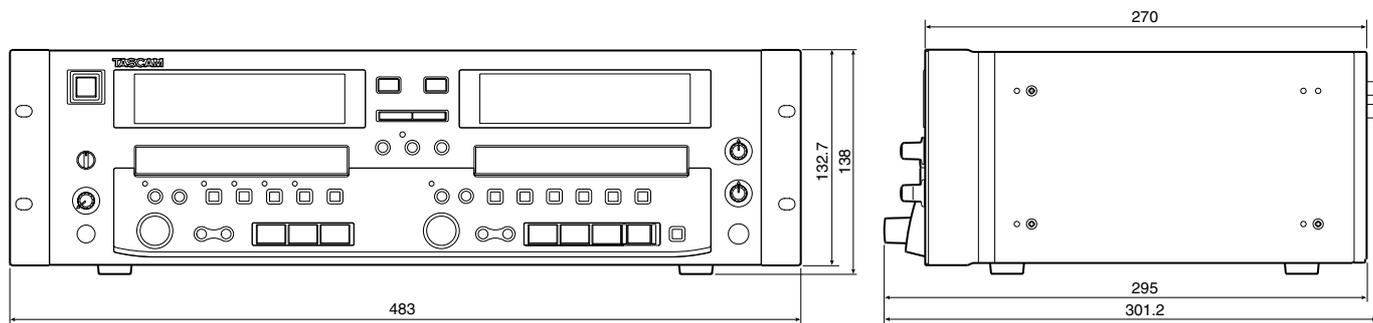
一般

電源:	100VAC、50 - 60Hz
消費電力:	34W
外形寸法:	483 × 138 × 301mm (幅 × 高さ × 奥行き)
質量:	8kg

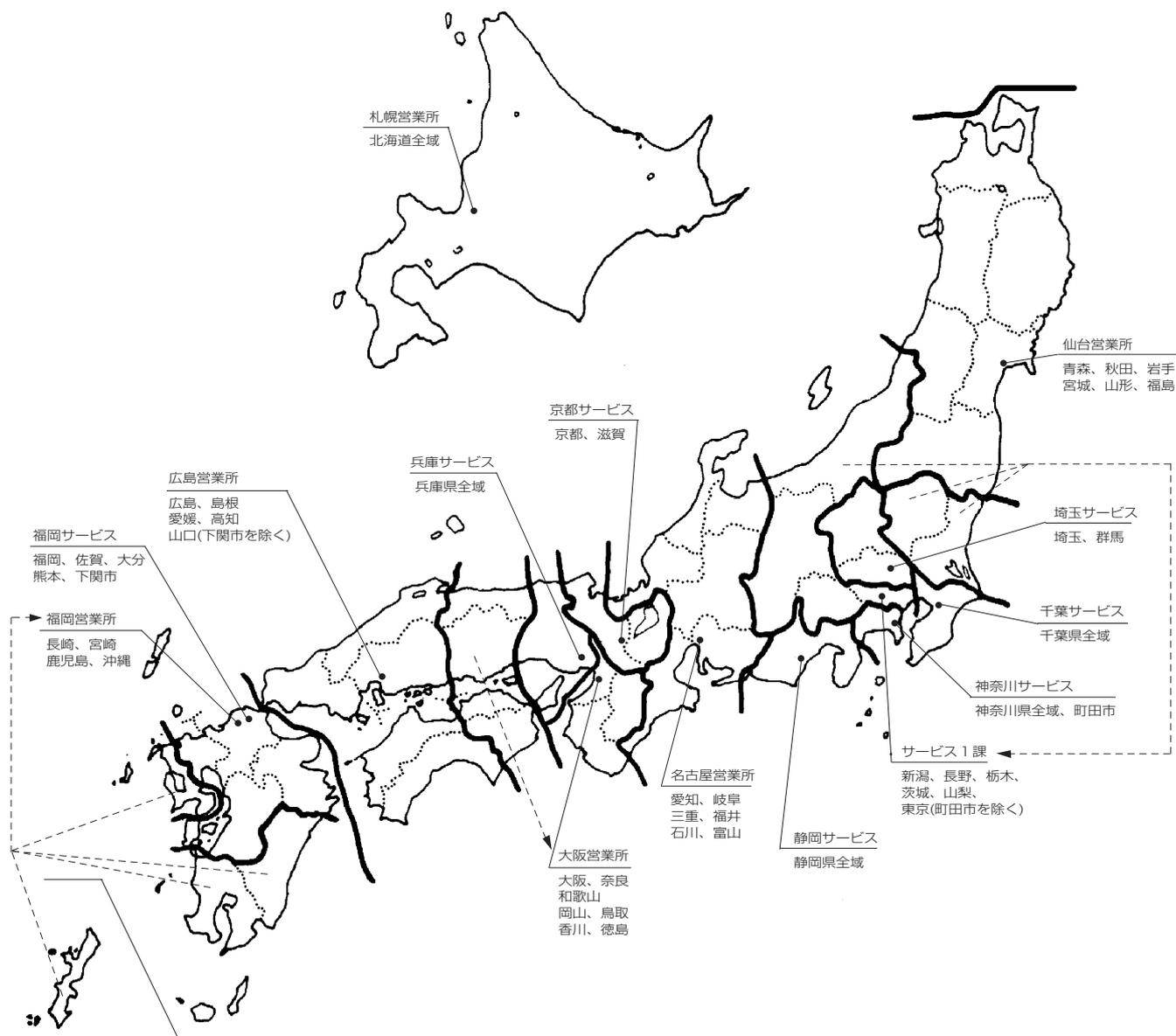
* CD Extra は、DISC コピーと DAO が選択できます。ただし、DISC コピーの場合はオーディオトラックのみの記録になります。その後のデータ部分までコピーしたいときは、DAO を選択してください。

仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

寸法図



TASCAM サービスエリア



ティアック株式会社

タスカム部 ☎ (0422)52-5072 / FAX (0422)52-6782 〒 180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

技術的なお問い合わせ タスカム営業技術 ☎ (0422)52-5106 / FAX (0422)52-6782 〒 180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

アフター・サービスに関するお問い合わせ	札幌営業所 ☎ (011)521-4101(代) 〒 064-0807	札幌市中央区南7条西2-2-2 くぼたビル
	仙台営業所 ☎ (022)218-0007(代) 〒 981-3135	仙台市泉区八乙女3-2-30 リバーサイドビル及川
	埼玉サービス ☎ (048)642-4551 〒 331-0052	さいたま市三橋2-846
	サービス1課 ☎ (0422)52-5107 〒 180-8550	東京都武蔵野市中町3-7-3
	千葉サービス ☎ (043)255-1281 〒 260-0042	千葉市中央区椿森1-21-13 清水ビル
	神奈川サービス ☎ (042)746-6850 〒 228-0803	相模原市相模大野7-14-9 グリーンシティビル
	静岡サービス ☎ (054)238-2431 〒 422-8034	静岡市高松1-12-1 寿道ハイツ105号
	名古屋営業所 ☎ (052)702-3100(代) 〒 465-0025	名古屋市名東区上社5-406
	京都サービス ☎ (075)871-8730 〒 616-8224	京都市右京区常盤窪町19 西垣ビル
	大阪営業所 ☎ (06)6384-5201(代) 〒 564-0062	吹田市垂水町3-34-10
	兵庫サービス ☎ (0727)55-1002 〒 666-0004	兵庫県川西市萩原1-11-29
	広島営業所 ☎ (082)294-4751(代) 〒 730-0846	広島市中区西川口町13-19
	福岡営業所 ☎ (092)431-5781(代) 〒 812-0008	福岡市博多区東光2-2-24
	福岡サービス ☎ (092)957-2050 〒 811-2107	福岡県糟屋郡宇美町とびたけ3-7-12

■上記営業所にはサービス・センターを併設しています。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日を除く 9:30～12:00/13:00～17:00です。

■住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。 <http://www.teac.co.jp/tascam/>